

平成 30 年度 MM 教育実施状況把握アンケート調査結果

1.1 調査の目的

交通環境学習の実施状況や取組む上での課題を把握するために、全都道府県及び市の交通担当部署に加え、教育委員会を対象としたアンケート調査を実施した。

1.2 調査の設計

交通担当部署、教育委員会それぞれに調査票を設計した。今年度から新たに対象として追加した教育委員会への調査には、交通環境学習の説明と PR を兼ねて、依頼文の裏面に交通環境学習の PR チラシを掲載した。

調査の概要を以下に示す。

表 アンケート調査の概要

項目	交通担当部署	教育委員会
調査対象	都道府県及び市・特別区の交通担当部署 860 件	都道府県及び市・特別区の教育委員会 860 件
調査方法	配布：郵送配布 回収：選択方式（インターネット、FAX、メール）	
配布物	調査票（A3 両面）	依頼文 調査票（A3 両面）
調査期間	平成 30 年 11 月 28 日（水）～平成 30 年 12 月 21 日（金）	
回収状況	有効回収件数：432 件 回収率：50.2%	有効回収件数：75 件 回収率：8.7%

① 調査対象の抽出

交通担当部署については、平成 29 年度調査時に作成した対象者リストをベースに、自治体の担当部署の再編、送付先の変更の有無を自治体のホームページで確認し、今年度版の送付リストの作成を行った。なお、教育委員会については、エコモ財団から提供された対象者リストを使用した。

② 配布・回収方法と回収数

調査票の配布方法は郵送配布とし、回収方法については、昨年度までの継続実施手法の検討結果を踏まえ、今年度は、郵送による回収は行わず、簡易な調査方法の効果を検証するため、以下の 3 つの方法からの選択方式とした。

このため、WEB 版のアンケート調査については、回答ページと調査票（ワード版）ダウンロードページを作成した。

- WEB 回答ページから回答
- 郵送した調査票に記入して FAX で回収
- WEB ページからダウンロードした調査票に記入後メールで回収

回答方法別の回収状況は下表のとおりである。

表 回答方法別有効回答数

回答方法	交通担当部署		教育委員会	
	回収数(件)	構成比(%)	回収数(件)	構成比(%)
WEB ページ	265	61.3	41	57.7
FAX	101	23.4	27	36.0
メール	65	15.0	7	9.3
その他	1	0.2		
総 計	432	回収率 50.2%	75	回収率 8.7%

※2019年1月15日回答分までを集計

③ 調査項目および調査の設計

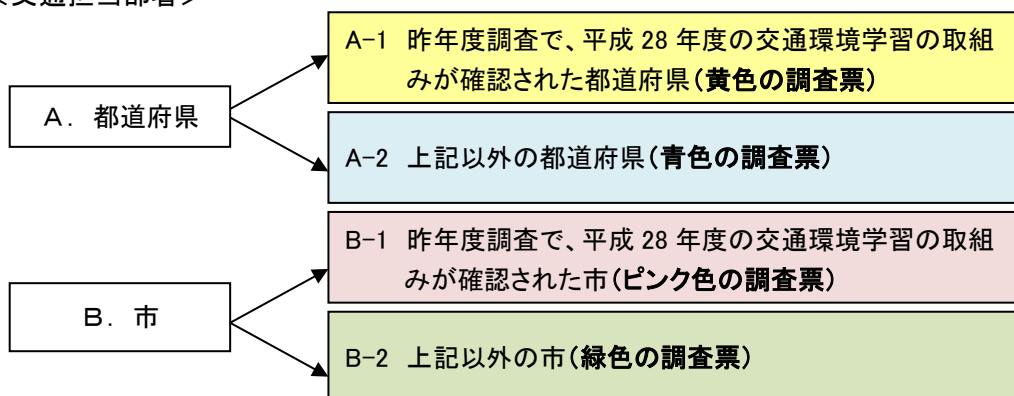
交通担当部署の調査票は、回答のしやすさを考慮し、昨年度と同様、都道府県（A）と市（B）で区別し、さらに、昨年度調査での交通環境学習の取組みの有無により、下記の「内容1」、「内容2」の4種類にわけて設計した。教育委員会については、今年度からの調査であり、昨年度の取組みの有無が把握されていないことから、調査票は1種類とした。

内容1：H29年度調査で交通環境学習の取組みが確認された自治体

内容2：H29年度調査で交通環境学習の取組みが確認されなかった自治体

(回答があったが未実施、未回答)

<交通担当部署>



<教育委員会>



図 アンケートの構成

表 交通担当部署の調査項目

調査項目		内容1	内容2
①交通環境学習 の実施状況	昨年度実施の有無	○	○
	継続的に実施できる理由【新規】	○	×
	実施意向の有無	×	○
	実施しなかった理由	○	○
	実施方法(1)(2)(3)	○	○
	実施内容	○	○
②今後の取組み	今後の取組み予定	×	○
	取組む上での課題や障壁	○	○
	取組み上の問題点、支援してほしい事柄	○	○
③属性	連絡先	○	○

表 教育委員会の調査項目

調査項目	
①交通環境学習 の実施状況	小学校での取組状況
	取組の代表事例
	小学校以外での取組状況
②今後の取組み	教育方針と交通環境学習の親和性
	市の教育方針との合致点
	交通環境学習の効果
	取組む上での課題や障壁
	交通環境学習の普及・推進意向
③属性	連絡先

1.3 アンケートの結果

(1) 交通担当部署アンケート

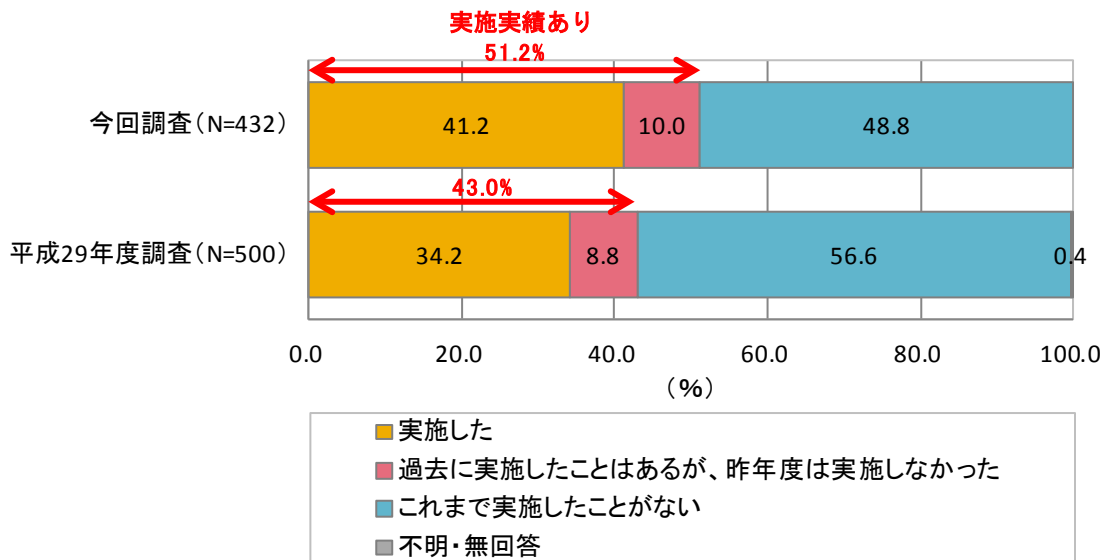
1 「交通環境学習」の実施状況

1.1 「交通環境学習」の実施

① 「交通環境学習」の実施

問1 貴自治体では昨年度（平成29年度）に、「交通環境学習」を実施しましたか？（1つに○）

- 交通環境学習の実施状況は、「実施した」が41.2%で、「過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった」（10.0%）を含めると、今まで実施実績がある自治体は51.2%となっている。
- 昨年度調査と比べても「実施した」自治体の割合は7.0ポイント増加しており、年々増加傾向にある。
- 地方別にみると、半数以上の自治体に実施実績があるのは北海道（56.3%）、北陸（62.5%）、中部（60.0%）、近畿（63.2%）、中国（55.6%）であり、九州・沖縄では37.0%と低くなっている。
- 都道府県の実施率は70.6%、市区の実施率は50.4%となっており、市区について人口規模別にみると、人口規模が大きいほど実施率が高く、50万人以上の自治体では76.2%となっている。



選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 実施した	178	41.2	171	34.2	150	32.8
2 過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった	43	10.0	44	8.8	35	7.6
3 これまで実施したことがない	211	48.8	283	56.6	273	59.6
不明・無回答	0	0.0	2	0.4	0	0.0
合計	432	100.0	500	100.0	458	100.0
実施したことがある	221	51.2	215	43.0	185	40.4

図 「交通環境学習」の実施

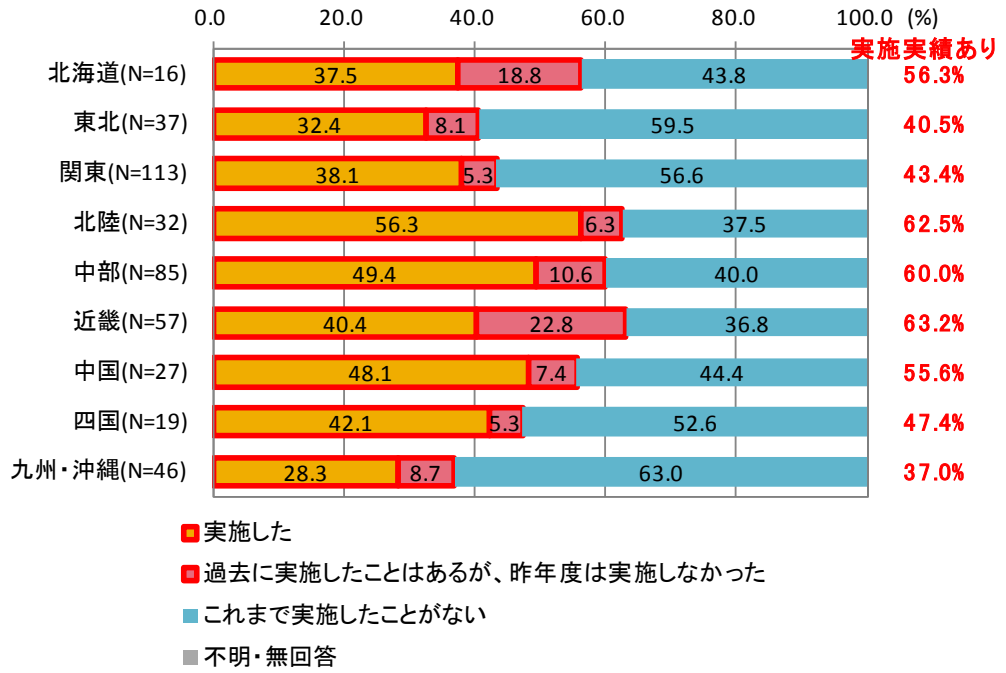


図 地方別「交通環境学習」の実施状況

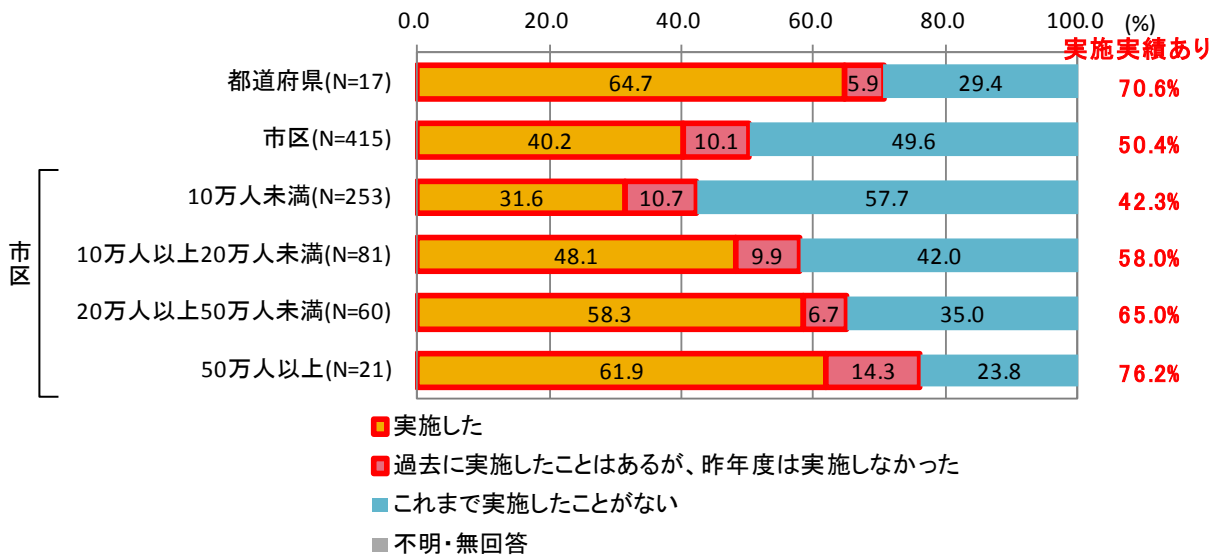


図 人口規模別「交通環境学習」の実施状況

○3年連続で回答があった219自治体について、過年度の調査結果との紐付けを行い、3年間の実施状況を整理した。58自治体が3年連続で実施しており、平成28年度から2年連続で実施したのは19自治体、平成29年度に初めて実施したのは24自治体であった。逆に3年間1度も実施しなかったのは93自治体となっている。また、過年度に実施していたものの、平成29年度は実施しなかった自治体は22自治体であった。

表 過去3年間の「交通環境学習」の実施状況の変化

H29実績 (H30調査)	H28実績 (H29調査)	H27実績 (H28調査)	件数
○	○	○	58
○	○	×	19
○	×	×	24
○	×	○	3
×	○	○	10
×	×	○	8
×	○	×	4
×	×	×	93

※3年連続で回答があった自治体の状況

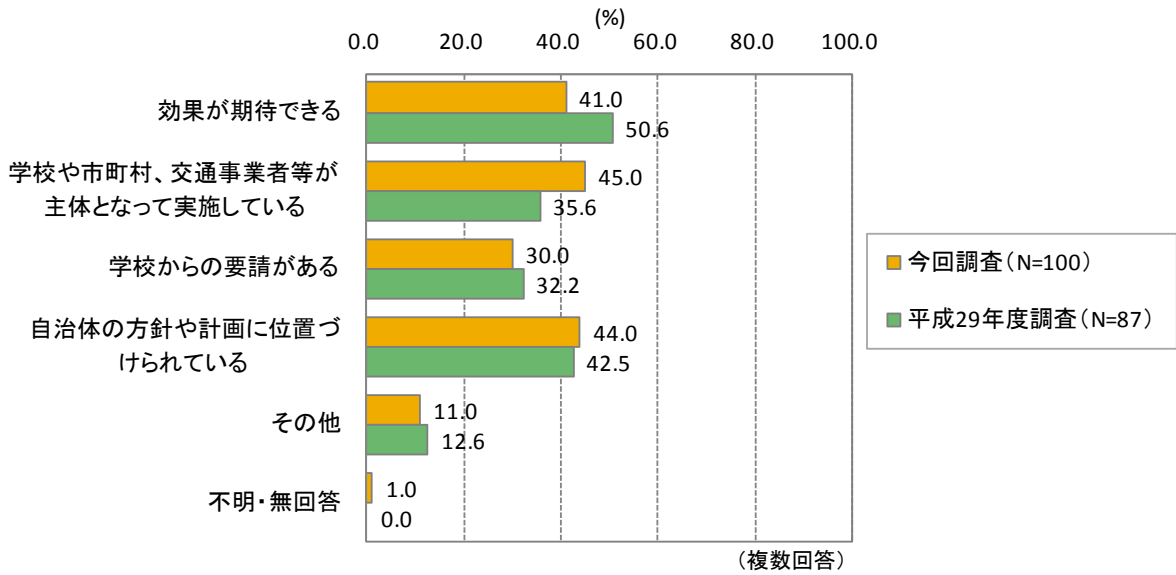
② 「交通環境学習」を継続的に実施できる理由

(昨年度調査で交通環境学習の実施が確認された自治体みの設問)

〈問1で「1」とお答えの方にお伺いします。〉
副問「交通環境学習」を継続的に実施できる理由は何ですか？(いくつでも)

○昨年度調査で実施が確認された自治体に、交通環境学習を継続的に実施できる理由をお聞きしたところ、「学校や市町村、交通事業者等が主体となって実施している」が45.0%と最も高く、次いで「自治体の方針や計画に位置づけられている」が44.0%、「効果が期待できる」が41.0%となっている。「学校からの要請がある」も30.0%あった。

○具体的に期待する効果の内容としては、「公共交通の利用促進・利用者増」が最も多い。



選択肢	今回調査		平成29年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 効果が期待できる	41	41.0	44	50.6
2 学校や市町村、交通事業者等が主体となって実施している	45	45.0	31	35.6
3 学校からの要請がある	30	30.0	28	32.2
4 自治体の方針や計画に位置づけられている	44	44.0	37	42.5
5 その他	11	11.0	11	12.6
不明・無回答	1	1.0	0	0.0
合計	100	100.0	87	100.0

図 「交通環境学習」を継続的に実施できる理由

■ 「1. 期待する効果」の具体的な内容

分類項目	件数(件)
公共交通の利用促進・利用者増	30
公共交通のことを知ってもらう・興味を持ってもらう	7
利用方法の周知・マナー向上	4

■ 「5. その他」の主な内容

分類項目	件数(件)
学校や地元団体が意欲的である	4
学校や交通事業者以外で実施主体となる団体がある	2
交通安全教室等と併せて実施している	2
その他	2

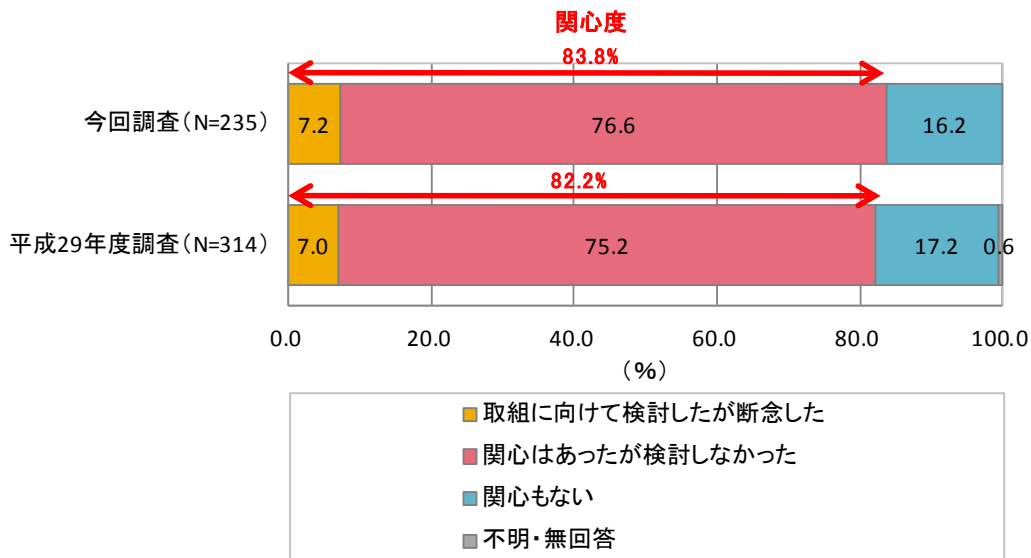
③ 「交通環境学習」に取組む意向

(昨年度調査で交通環境学習の実施が確認されなかった自治体のみの設問)

〈問1で「2」、「3」とお答えの方にお伺いします。〉
副問「交通環境学習」に取組む意向はありましたか？（1つに○）

○実施しなかった自治体に、交通環境学習に取組む意向をお聞きしたところ、「関心はあったが検討しなかった」が76.6%と最も多く、次いで「関心もない」が16.2%、「取組に向けて検討したが断念した」は7.2%となっている。「取組に向けて検討したが断念した」と「関心はあったが検討しなかった」をあわせると、関心のある自治体は83.8%と8割を超え、平成29年度調査と比較すると、関心度は1.6ポイント上昇している。

○都道府県の関心度は100.0%、市区の関心度は83.5%であり、市区を人口規模別にみても関心度に大きな差は見られない。



選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 取組に向けて検討したが断念した	17	7.2	22	7.0	27	8.8
2 関心はあったが検討しなかった	180	76.6	236	75.2	219	71.1
3 関心もない	38	16.2	54	17.2	57	18.5
不明・無回答	0	0.0	2	0.6	5	1.6
合計	235	100.0	314	100.0	308	100.0
関心がある	197	83.8	258	82.2	246	79.9

図 「交通環境学習」に取組む意向

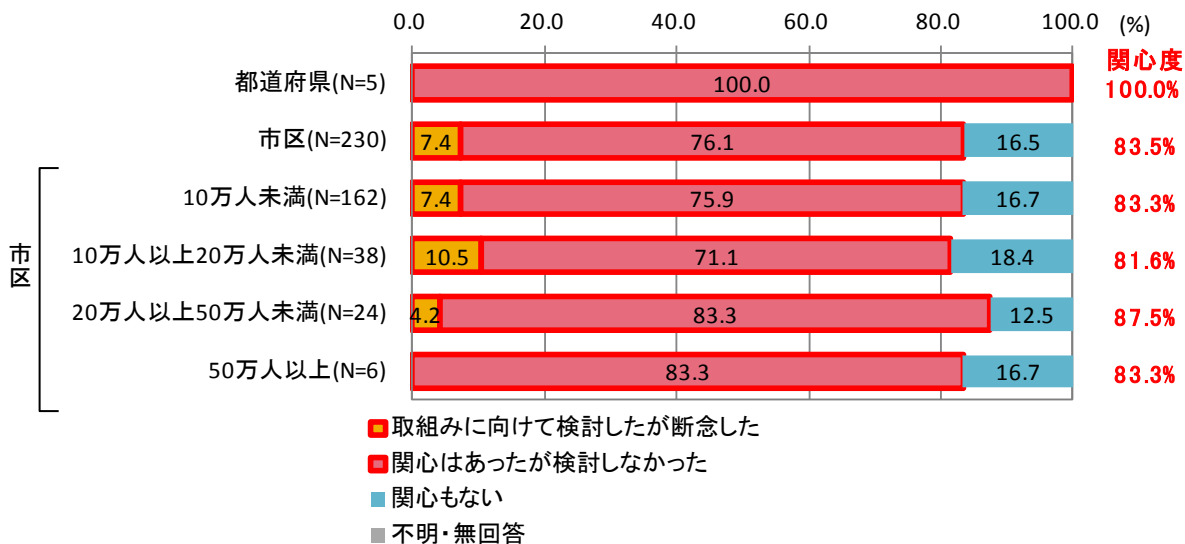


図 自治体規模別「交通環境学習」に取り組む意向

【実施状況別（問1）・取り組む意向】

○実施状況別にみると、過去に実施したことのある自治体では関心度が100%となっており、実施経験のある自治体のほうが取組への関心度が高いことが伺える。

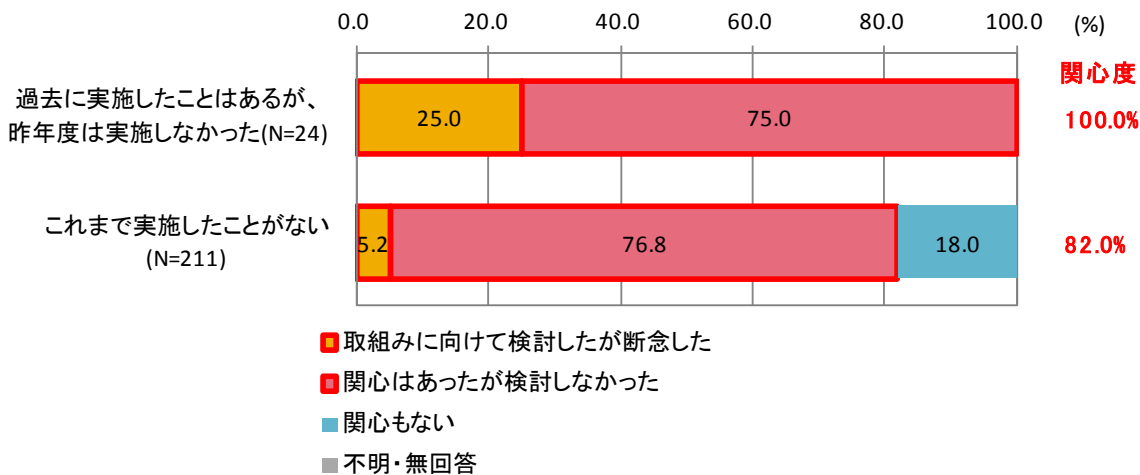


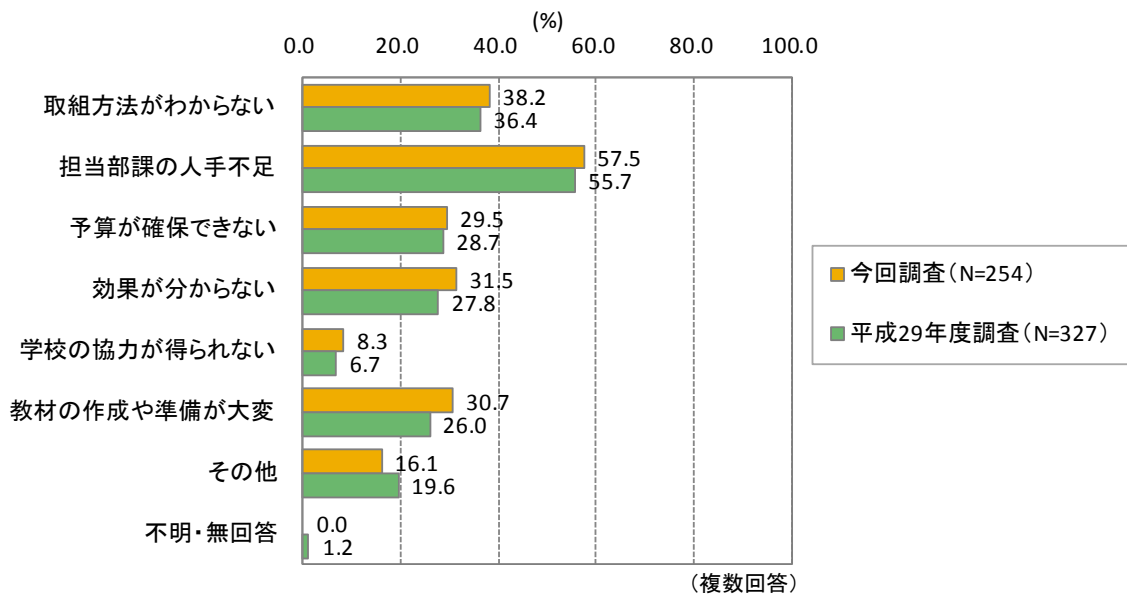
図 実施状況別「交通環境学習」に取り組む意向

④ 実施しなかった理由

〈問1で「2」、「3」とお答えの方にお伺いします。〉

副問「交通環境学習」を実施しなかった理由は何ですか？（いくつでも）

- 「担当部課の人手不足」が57.5%と回答者の半数以上を占め、次いで「取組方法がわからない」が38.2%、「効果がわからない」が31.5%、「教材の作成や準備が大変」が30.7%、「予算が確保できない」が29.5%と続く。
- その他の主な意見は、「他に優先する業務がある」（6件）、「必要性を感じていない・実施の検討をしていない」、「関係機関との調整がうまくいかなかった」、「今年度取り組んだ・取組を検討している」、「依頼がなかった」、「学校に余裕がない」（各5件）となっている。



選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 取組方法がわからない	97	38.2	119	36.4	110	35.7
2 担当部課の人手不足	146	57.5	182	55.7	154	50.0
3 予算が確保できない	75	29.5	94	28.7	84	27.3
4 効果が分らない	80	31.5	91	27.8	87	28.2
5 学校の協力が得られない	21	8.3	22	6.7	34	11.0
6 教材の作成や準備が大変	78	30.7	85	26.0	85	27.6
7 その他	41	16.1	64	19.6	58	18.8
不明・無回答	0	0.0	4	1.2	7	2.3
合計	254	100.0	327	100.0	308	100.0

図 実施しなかった理由

■ 「7. その他」の主な意見

分類項目	件数(件)
他に優先する業務がある	6
必要性を感じていない・実施の検討をしていない	5
関係機関との調整がうまくいかなかった	5
今年度取り組んだ・取組を検討している	5
依頼がなかった	5
学校に余裕がない	5
他の実施主体が取り組んでいる	2
他	7

○都道府県では「予算が確保できない」が最も多く挙げられる一方、市区では「担当部課の人手不足」が最も多く挙げられている。

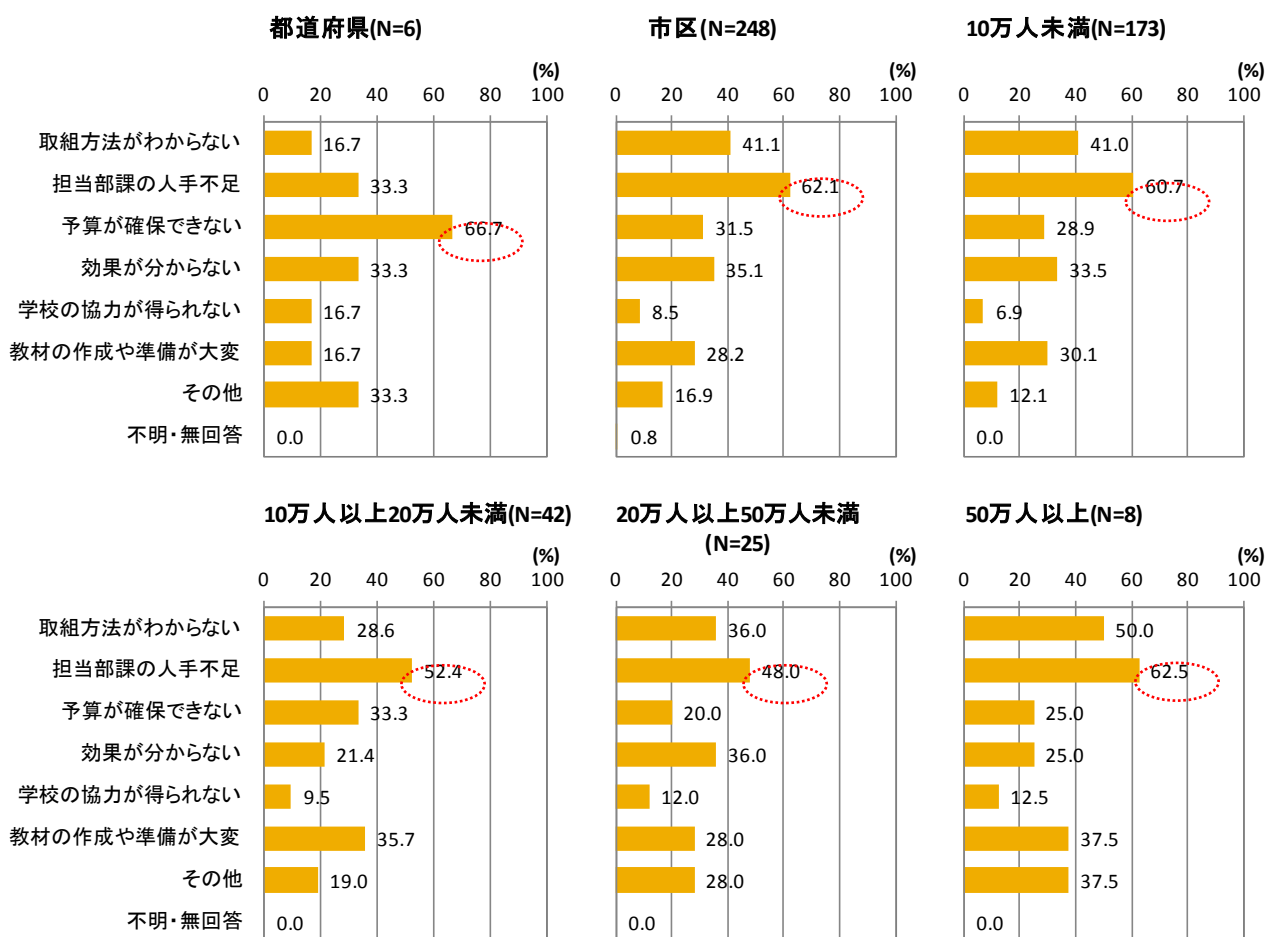


図 人口規模別実施しなかった理由

【取組む意向別（問1）・実施しなかった理由】

- 検討したが断念した自治体・関心はあったが検討しなかった自治体共に、「担当部課の人手不足」が最も多く、人手不足が課題となっていることが伺える。
- 関心はあったが検討しなかった自治体では、「取組方法がわからない」という回答も多く、情報不足やノウハウ不足により検討まで至らなかったということが伺える。
- 関心のない自治体では、「効果が分からない」が最も多く、取組効果に疑問を感じている自治体の割合が、関心のある自治体に比べて高い。

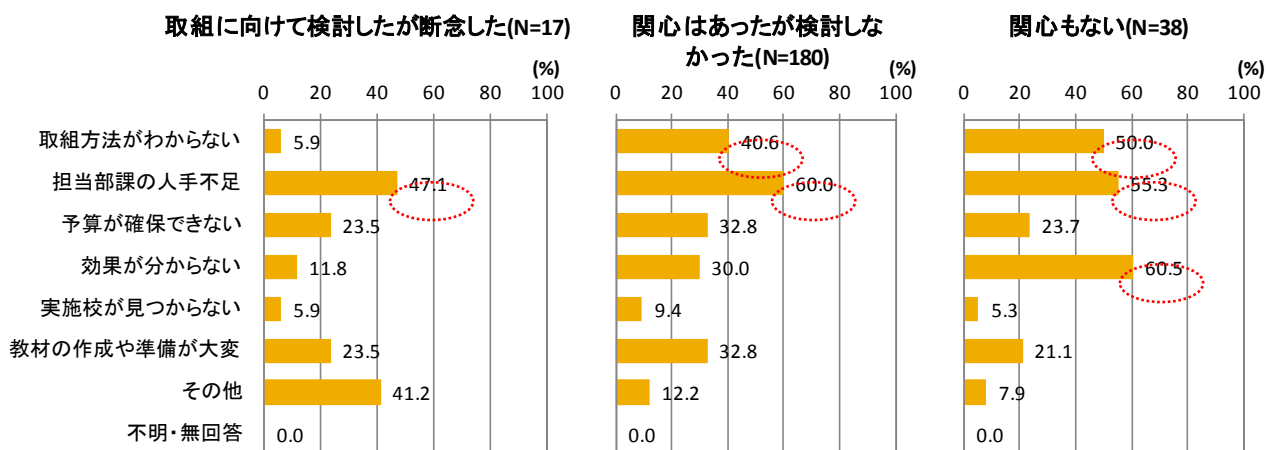


図 取組み意向別の実施しなかった理由

1.2 交通環境学習の実施方法

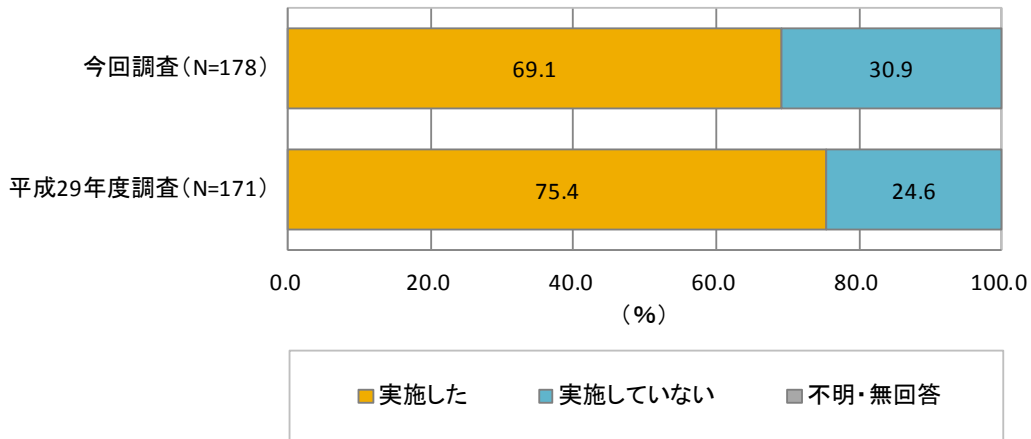
※問1で「1 実施した」と答えた方のみ回答

① 授業の一環としての「交通環境学習」の実施

問2 昨年度、貴自治体で取り組まれた「交通環境学習」の実施方法についてお伺いします
(1)それは、学校の授業の一環として実施しましたか

○学校の授業の一環として「実施した」が69.1%を占める。

○地方別にみると、北海道、近畿、中国で授業の一環として「実施した」割合が高い。一方、東北、四国では低くなっている。



選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 実施した	123	69.1	129	75.4	127	84.7
2 実施していない	55	30.9	42	24.6	23	15.3
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	178	100.0	171	100.0	150	100.0

図 「交通環境学習」の学校の授業の一環としての実施

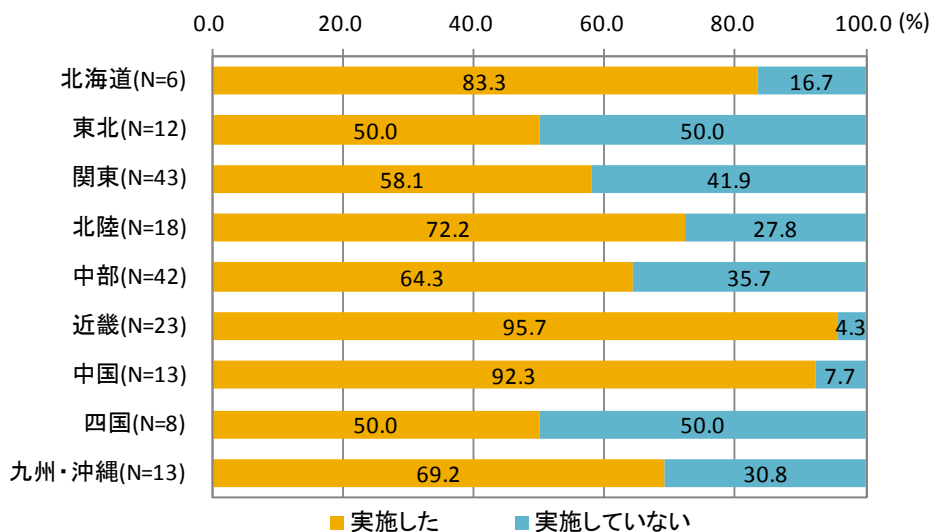


図 地方別「交通環境学習」の学校の授業の一環としての実施

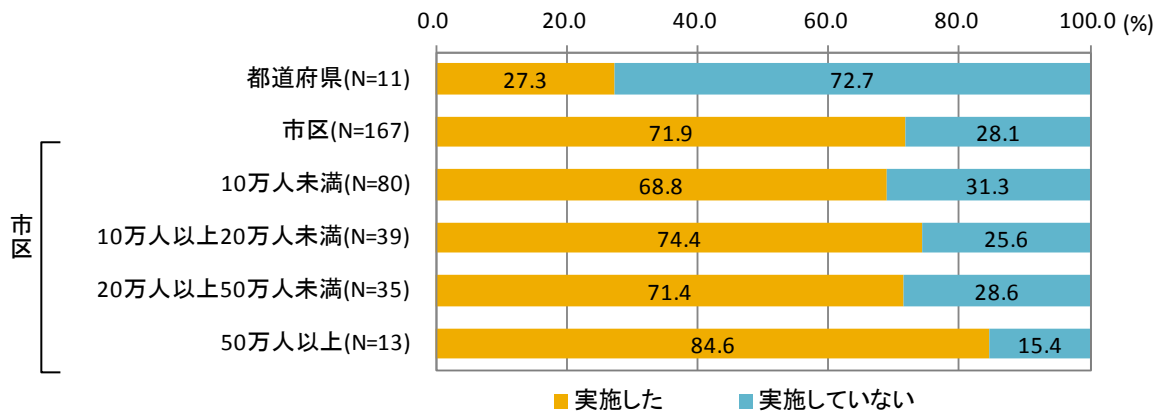


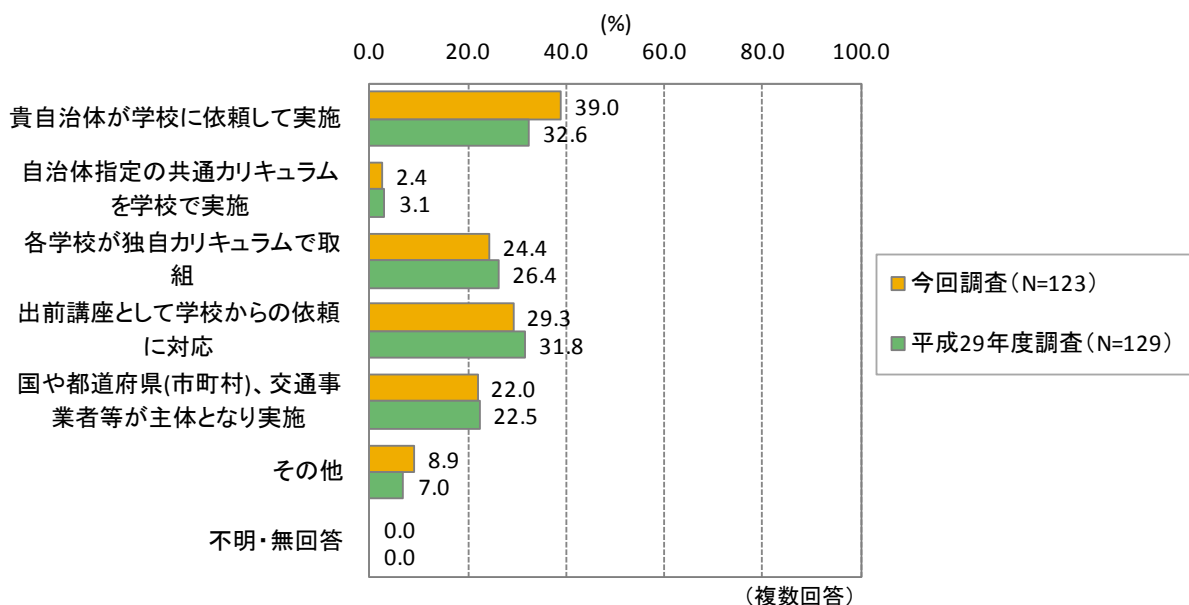
図 人口規模別「交通環境学習」の学校の授業の一環としての実施

② 授業の実施主体

〈(1) で「1」とお答えの方にお伺いします。〉

副問2.1 授業の実施主体をお答えください。(いくつでも)

- 「貴自治体が学校に依頼して実施」が39.0%と最も多く、次いで「出前講座として学校からの依頼に対応」が29.3%、「各学校が独自カリキュラムで取組」が24.4%の順となっている。
- 平成29年度調査と比較すると、「貴自治体が学校に依頼して実施」の割合は6.5ポイント増加している。
- 地方別にみると、北陸では「各学校が独自カリキュラムで取組み」の割合が高く、東北、中国では、「出前講座として学校からの依頼に対応」の割合が高い。また、関東、中部では、「貴団体が学校に依頼して実施」の割合が高く、四国では「国や都道府県(市町村)、交通事業者等が主体となり実施」が高い。北海道では「各学校が独自カリキュラムで取組み」と「出前講座として学校からの依頼に対応」が同率で多く、学校が主体的に取り組んでいることが伺える。近畿では、「貴団体が学校に依頼して実施」と「国や都道府県(市町村)、交通事業者等が主体となり実施」が、九州・沖縄では「貴団体が学校に依頼して実施」と「各学校が独自カリキュラムで取組」が同率で高い。



選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 貴自治体が学校に依頼して実施	48	39.0	42	32.6	48	37.8
2 自治体指定の共通カリキュラムを学校で実施	3	2.4	4	3.1	8	6.3
3 各学校が独自カリキュラムで取組	30	24.4	34	26.4	39	30.7
4 出前講座として学校からの依頼に対応	36	29.3	41	31.8	32	25.2
5 国や都道府県(市町村)、交通事業者等が主体となり実施	27	22.0	29	22.5	5	3.9
6 その他	11	8.9	9	7.0	19	15.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	123	100.0	129	100.0	127	100.0

図 授業の実施主体

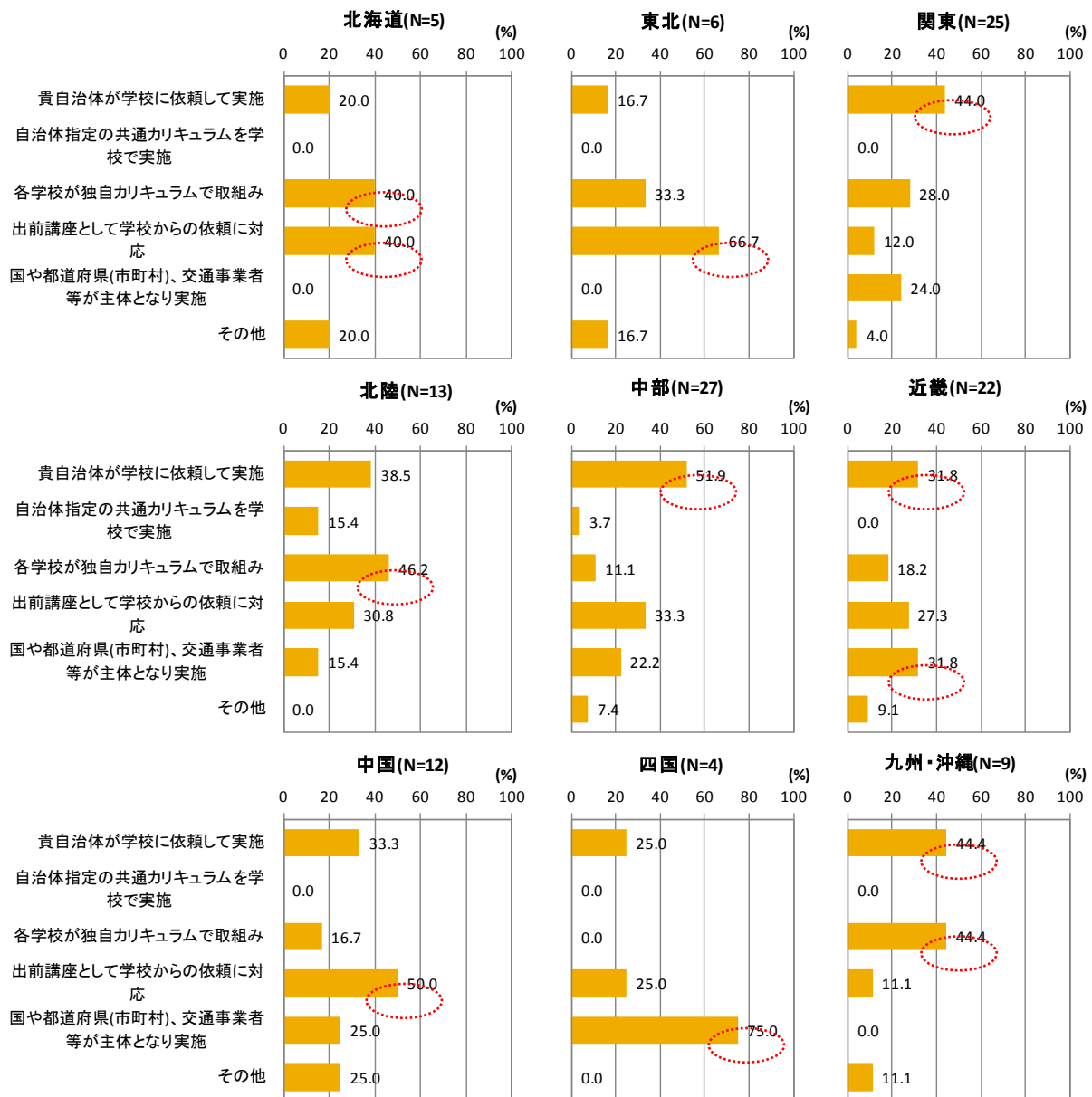


図 地方別授業の実施主体（複数回答）

<参考>

※問1で平成29年度に実施したと回答した自治体における割合

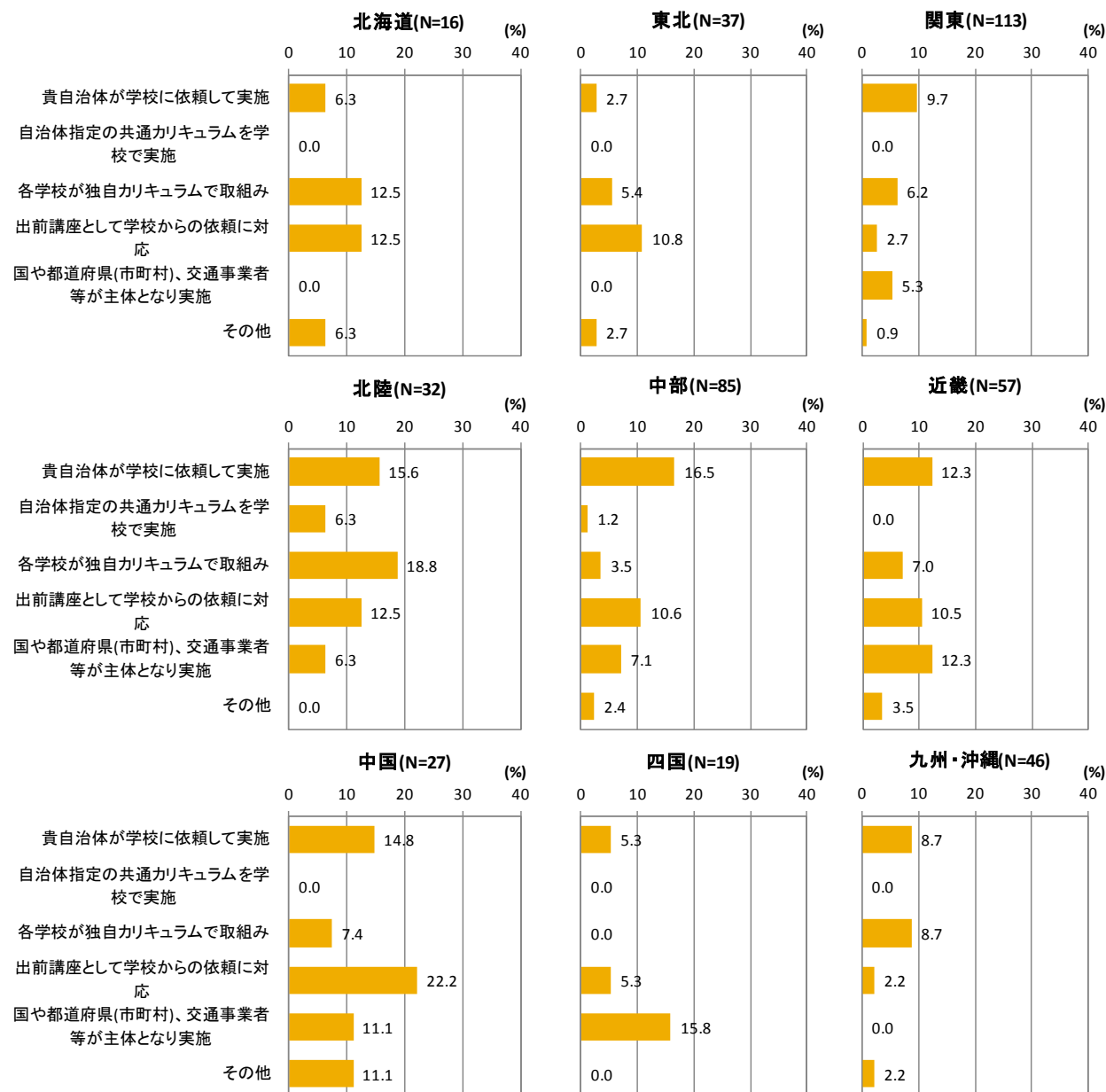


図 地方別授業の実施主体（複数回答）

<参考>

※アンケート配布自治体数における割合

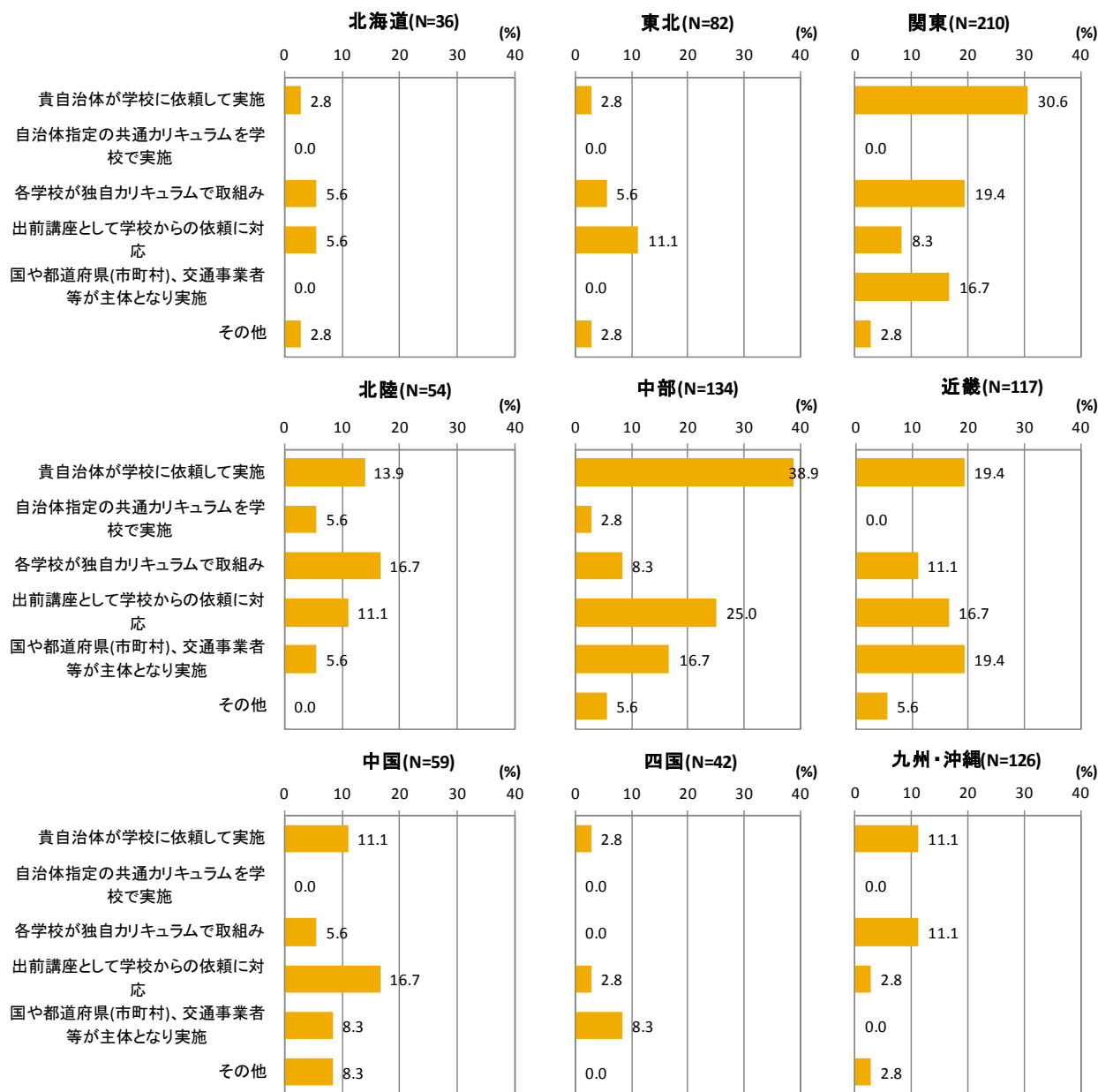


図 地方別授業の実施主体（複数回答）

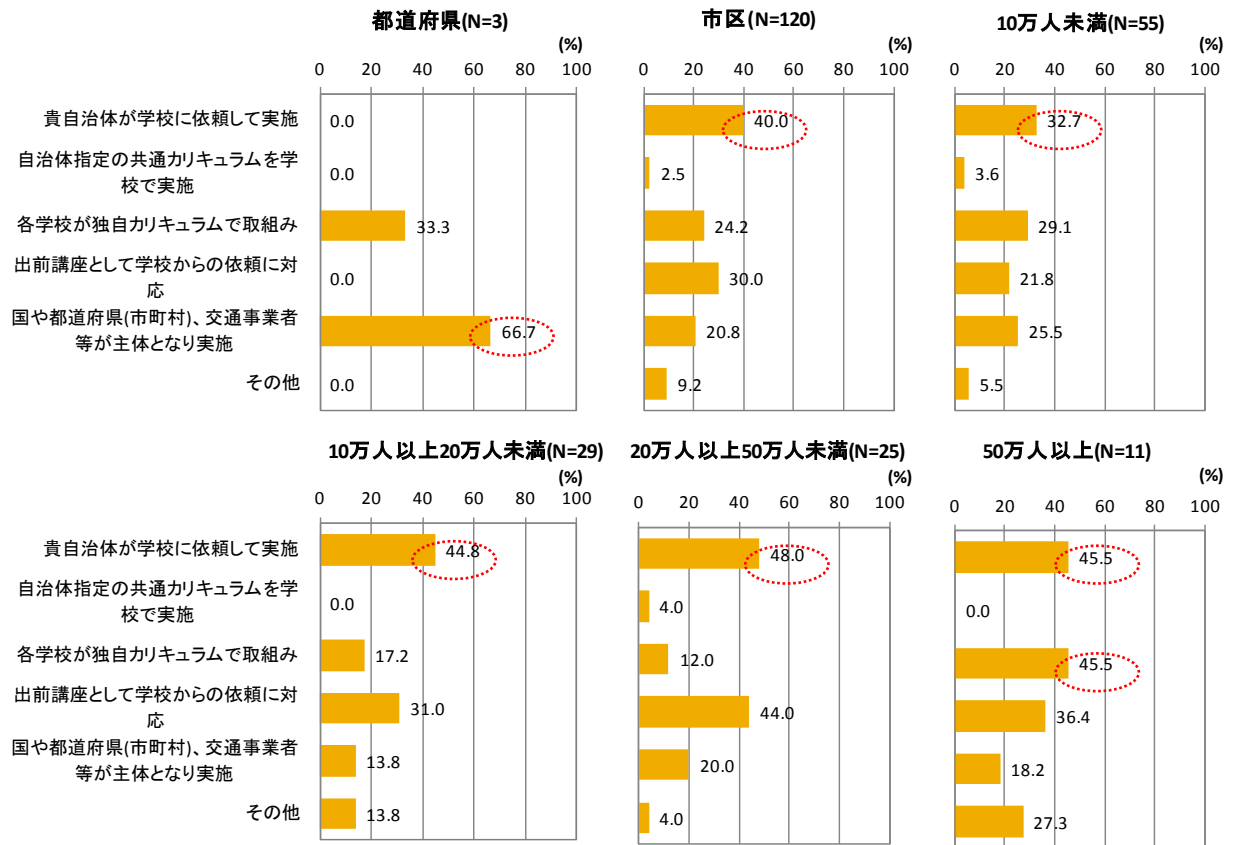
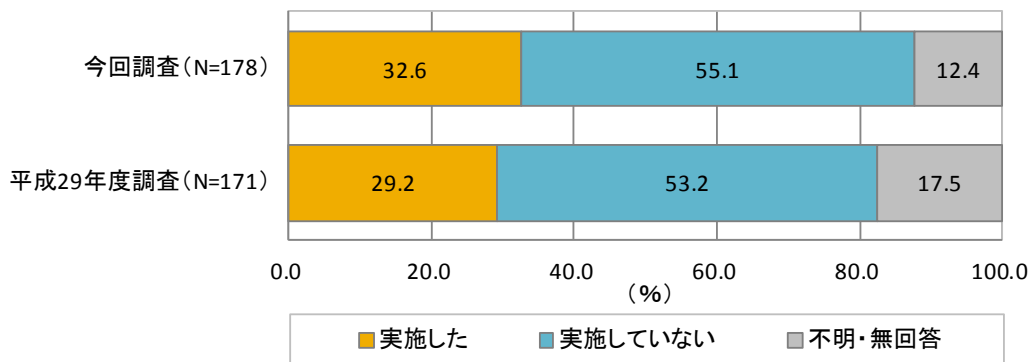


図 人口規模別授業の実施主体 (複数回答)

③ イベントとしての「交通環境学習」の実施

(2) それは、イベント (フォーラム、バスまつり等) として実施しましたか？

○ 「イベントとして実施した」は32.6%で、「実施していない」が55.1%となっている。



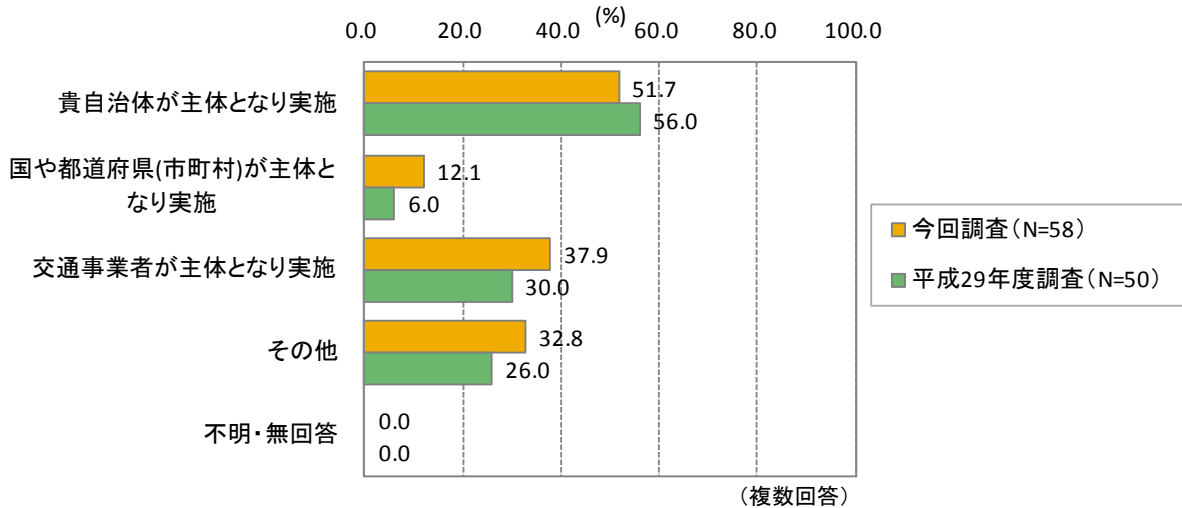
選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 実施した	58	32.6	50	29.2	30	20.0
2 実施していない	98	55.1	91	53.2	108	72.0
不明・無回答	22	12.4	30	17.5	12	8.0
合計	178	100.0	171	100.0	150	100.0

図 「交通環境学習」のイベントとしての実施

④ イベントの実施主体

〈(2) で「1」とお答えの方にお伺いします。〉
副問2.2 イベントの実施主体をお答えください。(いくつでも)

- 「自治体」が51.7%と回答者の過半数を占め、「交通事業者」が37.9%、「国や都道府県（都道府県向け調査では市町村）」は12.1%となっている。
- その他の主な意見は、「自治体に参加する協議会」（9件）、「地元団体が主催・地元団体との共催」（6件）となっている。



選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 貴自治体が主体となり実施	30	51.7	28	56.0	12	40.0
2 国や都道府県(市町村)が主体となり実施	7	12.1	3	6.0	5	16.7
3 交通事業者が主体となり実施	22	37.9	15	30.0	16	53.3
4 その他	19	32.8	13	26.0	7	23.3
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	58	100.0	50	100.0	30	100.0

図 イベントの実施主体

■ 「4. その他」の主な内容

分類項目	件数(件)
自治体に参加する協議会	9
地元団体が主催・地元団体との共催	6
その他	4

⑤ 授業やイベント以外の実施方法

(3)それは、授業やイベント以外にどのような方法で実施しましたか（具体的に）

- 「学校以外（地域や幼稚園保育園）への出前講座」（10件）が最も多く、次いで「放課後や休日、長期休暇を利用した学習」（9件）が続く。

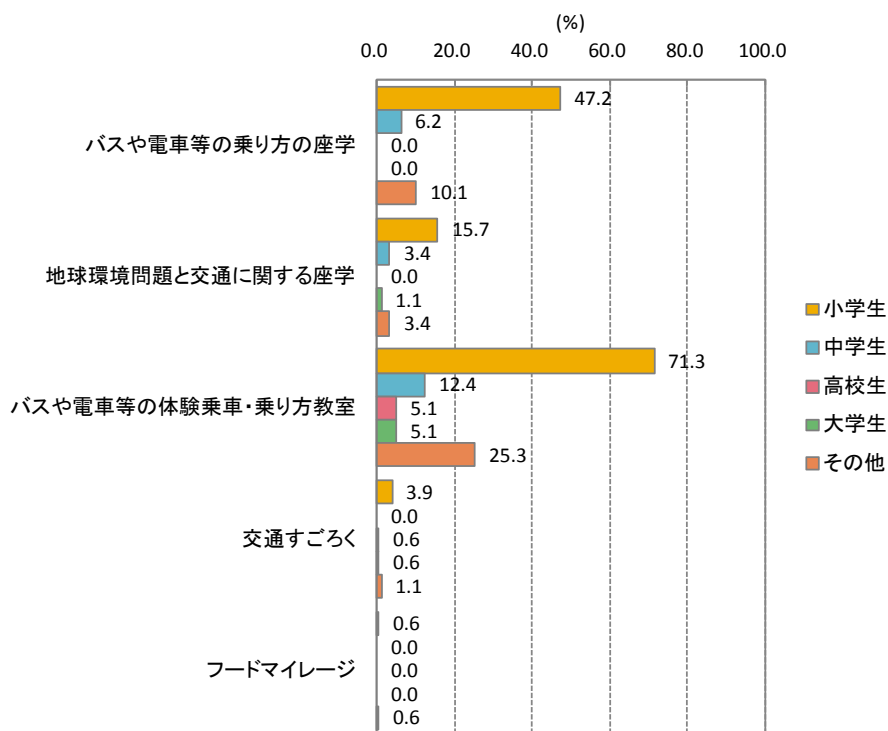
表 授業やイベント以外のやり方での実施方法

分類項目	件数(件)
学校以外(地域や幼稚園保育園)への出前講座	10
放課後や休日、長期休暇を利用した学習	9
読み物の配布	5
交通安全教室と組み合わせた学習	3
コンテスト開催・掲示物	3
校外学習・遠足と組み合わせた学習	1
その他	5

⑥ 実施した「交通環境学習」の対象者と内容

問3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？（枠内の該当する部分に○をご記入ください）

- 小学生を対象とした「バスや電車等の体験乗車・乗り方教室」が最も多く71.3%を占め、「バスや電車等の乗り方の座学」が47.2%と続く。
- その他の主な取組は、「調べ学習・フィールドワーク・スタンプラリー」（11件）、「その他座学」（8件）となっている。



N=178(複数回答) うち不明・無回答除く

選択肢		回答数(件)						構成比(%)							
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	合計	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	合計
座学	バスや電車等の乗り方の座学	84	11	0	0	18	83	178	47.2	6.2	0.0	0.0	10.1	46.6	100.0
	地球環境問題と交通に関する座学	28	6	0	2	6	147	178	15.7	3.4	0.0	1.1	3.4	82.6	100.0
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室	127	22	9	9	45	34	178	71.3	12.4	5.1	5.1	25.3	19.1	100.0
	交通すごろく	7	0	1	1	2	170	178	3.9	0.0	0.6	0.6	1.1	95.5	100.0
	フードマイレージ	1	0	0	0	1	177	178	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	99.4	100.0
その他	その他1	25	9	6	7	8	148	178	14.0	5.1	3.4	3.9	4.5	83.1	100.0
	その他2	6	1	1	1	1	172	178	3.4	0.6	0.6	0.6	0.6	96.6	100.0

(複数回答)

平成29年度調査

選択肢		回答数(件)						構成比(%)							
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	合計	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	合計
座学	バスや電車等の乗り方の座学	75	13	5	2	10	89	171	43.9	7.6	2.9	1.2	5.8	52.0	100.0
	地球環境問題と交通に関する座学	43	7	2	1	5	125	171	25.1	4.1	1.2	0.6	2.9	73.1	100.0
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室	118	15	10	5	31	40	171	69.0	8.8	5.8	2.9	18.1	23.4	100.0
	交通すごろく	5	0	1	0	0	165	171	2.9	0.0	0.6	0.0	0.0	96.5	100.0
	フードマイレージ	2	1	1	1	1	169	171	1.2	0.6	0.6	0.6	0.6	98.8	100.0
その他	その他1	24	5	5	7	7	139	171	14.0	2.9	2.9	4.1	4.1	81.3	100.0
	その他2	3	2	0	0	2	167	171	1.8	1.2	0.0	0.0	1.2	97.7	100.0

(複数回答)

図 「交通環境学習」の対象者と内容

■その他の主な取組み

分類項目	件数(件)
調べ学習・フィールドワーク・スタンプラリー	11
その他の座学	8
バリアフリー教室・交通安全教室	5
その他ゲーム・クイズ	3
展示物	2
おえかき・工作	1
その他	8

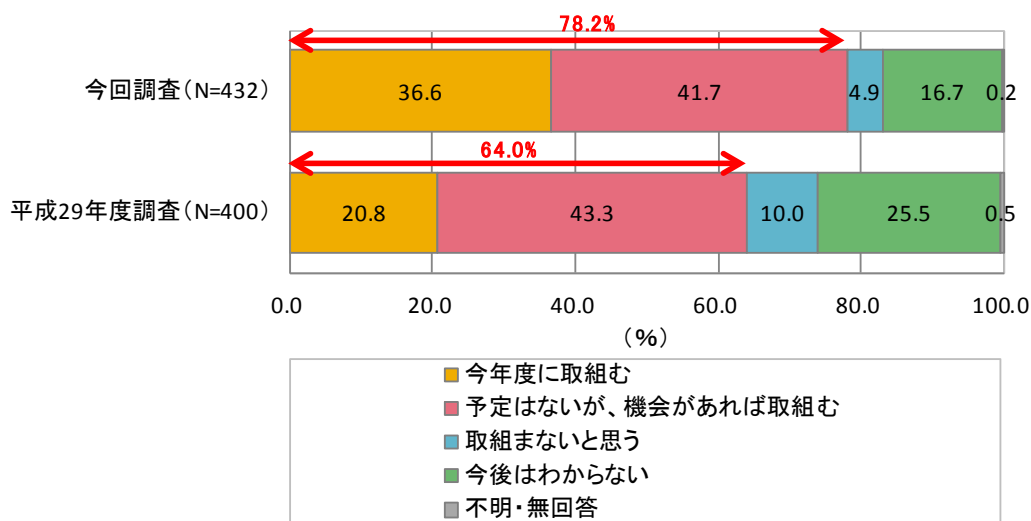
2 今後の「交通環境学習」について

① 今後「交通環境学習」に取り組む予定

問4 今後、「交通環境学習」に取り組む予定はありますか？（1つに○）

- 「予定はないが、機会があれば取り組む」が41.7%と最も高く、次いで「今年度に取り組む」が36.6%となっており、「今年度に取り組む」と「予定はないが、機会があれば取り組む」とをあわせた今後の取組意向がある自治体は78.2%となっている。
- 地方別にみると、東北、北陸、中部、近畿で8割以上の自治体に取り組意向があり、他地方でも6割以上の自治体に今後の取組意向がある。
- 都道府県は取組意向が9割以上と高く、市区でも、人口規模が大きくなるほど「今年度に取り組む」の割合が高くなっている。今後の取組意向のある自治体割合はどの人口規模でも8割前後である。

注：この設問は平成29年度調査までは取組が確認されていない自治体向けの調査票のみの設問であったが、今回調査では全ての調査票での設問となった。



選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 今年度(平成30年度)に取り組む	158	36.6	83	20.8	144	31.4
2 予定はないが、機会があれば取り組む	180	41.7	173	43.3	181	39.5
3 取組まないと思う	21	4.9	40	10.0	21	4.6
4 今後はわからない	72	16.7	102	25.5	111	24.2
不明・無回答	1	0.2	2	0.5	1	0.2
合計	432	100.0	400	100.0	458	100.0
取組み意向あり	338	78.2	256	64.0	325	71.0

図 「交通環境学習」に取り組む予定

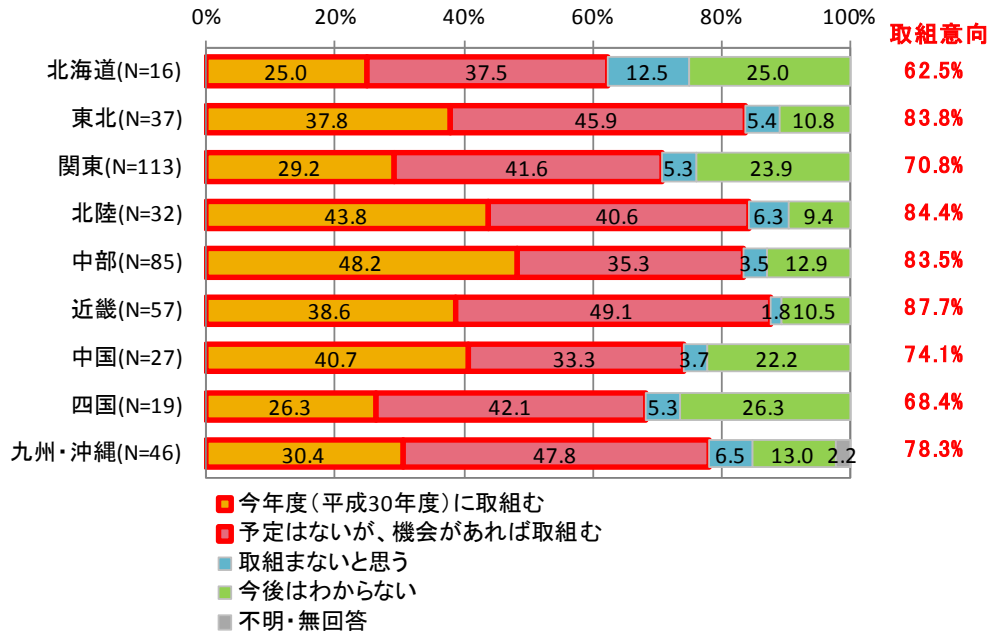


図 地方別「交通環境学習」に取組む予定

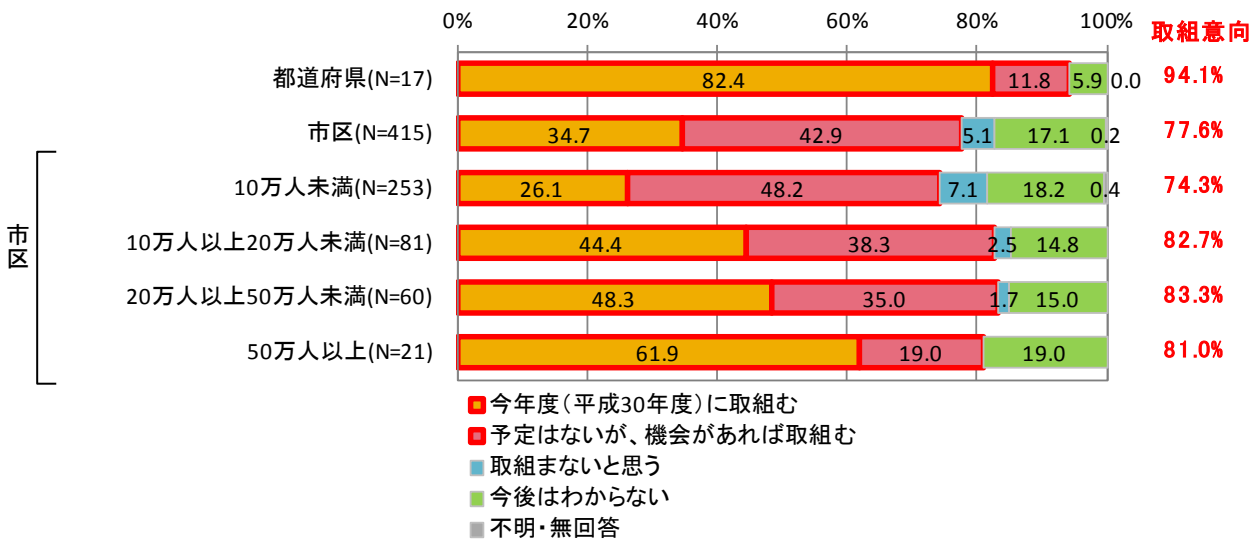


図 人口規模別「交通環境学習」に取組む予定

【実施状況別（問1）・今後の取組予定】

○昨年度に交通環境学習を実施した自治体ではほとんどが取組意向を示している。これまで取組んだことがない自治体でも、半数以上が取組む意向を示している。

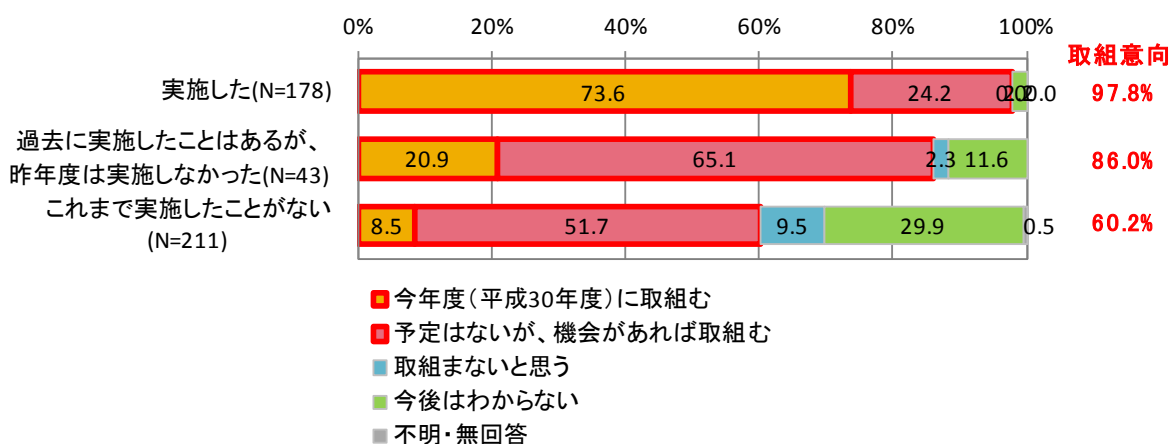


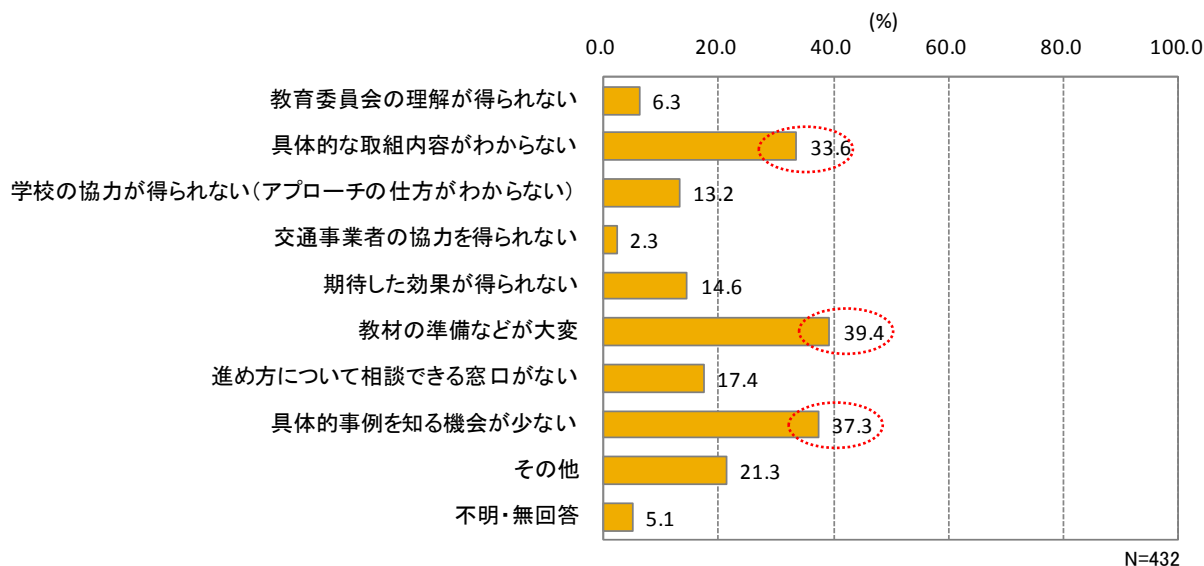
図 実施実績別「交通環境学習」に取組む予定

② 「交通環境学習」に取組んでいく上での課題や障壁

問5 「交通環境学習」に取組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

○「教材の準備などが大変」が39.4%と最も高く、次いで「具体的事例を知る機会が少ない」が37.3%、「具体的な取組内容がわからない」が33.6%となっている。

○その他の主な意見は、「担当課の人手不足」（24件）、「関係機関との調整・時数確保」（24件）、「効果の把握方法」（13件）、「予算の確保」（11件）、となっている。



選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 教育委員会の理解が得られない	27	6.3	22	4.4	-	-
2 具体的な取組内容がわからない	145	33.6	179	35.8	-	-
担当部課の人手不足※	-	-	-	-	229	50.0
自治体内の理解が得られない※	-	-	-	-	19	4.1
予算不足※	-	-	-	-	149	32.5
取組みに関する知識が不足※	-	-	-	-	203	44.3
3 学校の協力が得られない(アプローチの仕方がわからない)	57	13.2	78	15.6	62	13.5
4 交通事業者の協力を得られない	10	2.3	23	4.6	14	3.1
5 期待した効果が得られない	63	14.6	63	12.6	42	9.2
6 教材の準備などが大変	170	39.4	195	39.0	137	29.9
7 進め方について相談できる窓口がない	75	17.4	73	14.6	61	13.3
8 具体的事例を知る機会が少ない	161	37.3	147	29.4	112	24.5
9 その他	92	21.3	103	20.6	52	11.4
不明・無回答	22	5.1	49	9.8	14	3.1
合 計	432	100.0	500	100.0	458	100.0

※は平成28年度調査のみの設問項目

図 「交通環境学習」に取組んでいく上での課題や障壁

■ 「9. その他」の主な課題や障壁

分類項目	件数(件)
担当課の人手不足	24
関係機関との調整・学校の理解	24
効果の把握方法	13
予算の確保	11
学習を継続・拡大する難しさ	4
教材開発・学習内容	5
「交通環境学習」の認知度・優先度の低さ	6
公共交通を利用する環境にない	4
その他	11

○人口規模別に見ると、都道府県及び市区のいずれの人口規模においても「教材の準備が大変」の割合が高くなっている。また、都道府県及び10万人未満の市区においては「具体的事例を知る機会が少ない」も高い割合を占める。

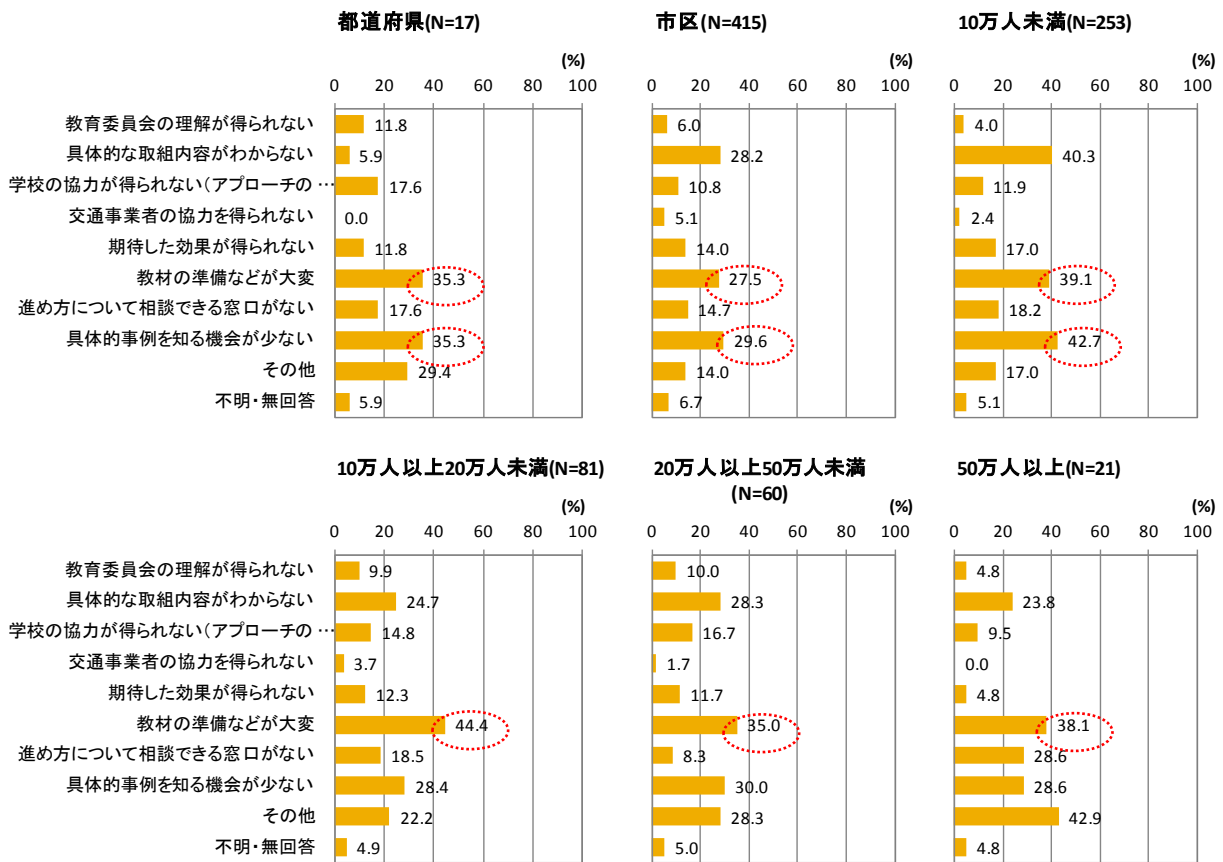


図 人口規模別「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁（複数回答）

【実施状況別（問1）・「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁】

- 実施状況別にみると、「実施した」自治体及び「過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった」自治体では共に「教材の準備などが大変」の割合が最も高く、「実施した」自治体では26.4%、「過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった」自治体では48.8%となっている。
- 「これまで実施したことがない」自治体では、「具体的な取組内容がわからない」が53.6%と最も高く、次いで「教材の準備などが大変」が48.3%、「具体的事例を知る機会が少ない」が46.9%となっている。

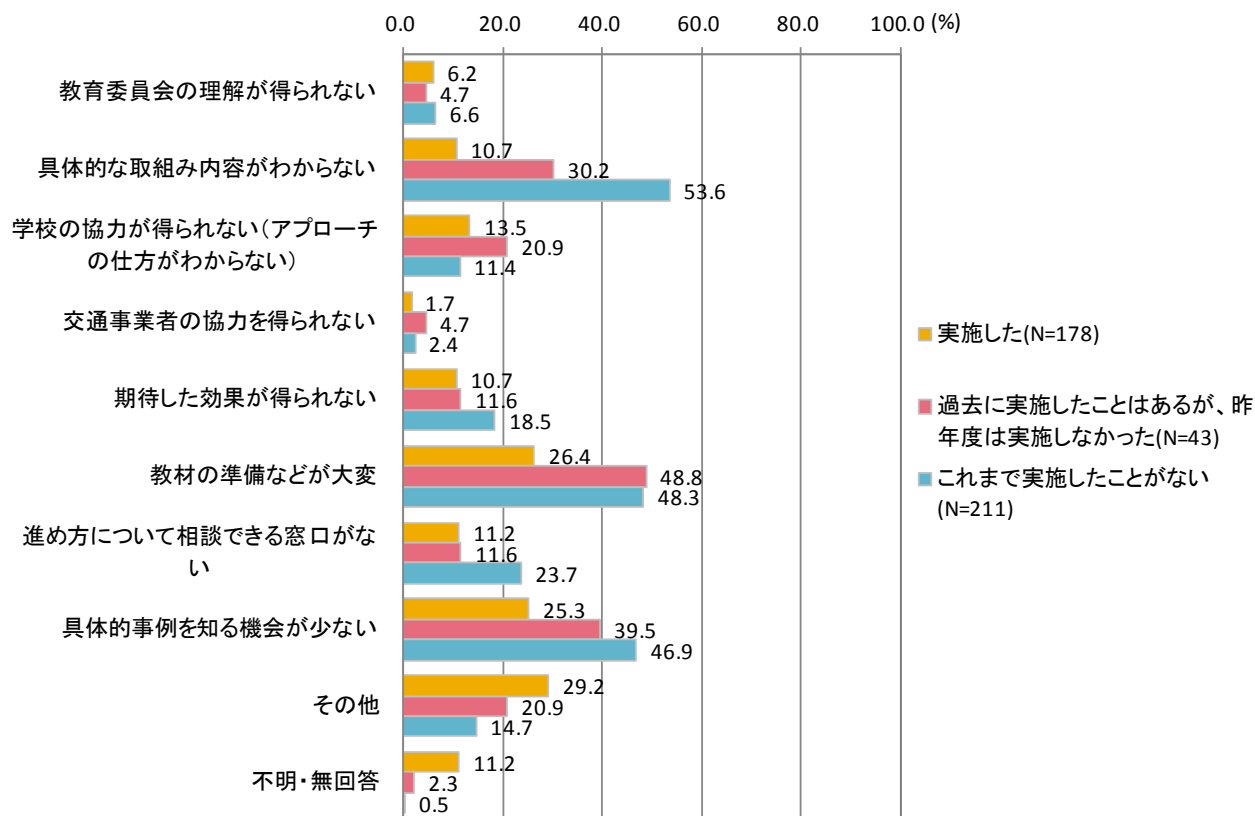


図 実施状況別「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁（複数回答）

③ 「交通環境学習」に取り組む場合に予想される問題点や支援して欲しい事柄（自由記述）

問6 今後、貴自治体において「交通環境学習」に取り組む場合に、予想される問題点や、支援して欲しい事柄などについて、具体的に教えてください。

○取組みに向けて予想される問題点や支援して欲しい内容について下記の分類で自由意見を整理した。問題や課題に関する意見が171件あり、うち「学校の理解・協力・調整」に関することが最も多く39件の意見があった。

○支援内容に関する意見は193件で、「学習プログラム・教材・ノベルティの提供」や「事例紹介」に関することが多くなっている。

※なお、ひとつの意見に複数の分類が重なっているため、回答自治体数の合計と一致しない。

表一取組に向けて予想される問題点や支援要望内容（自由記述内容）

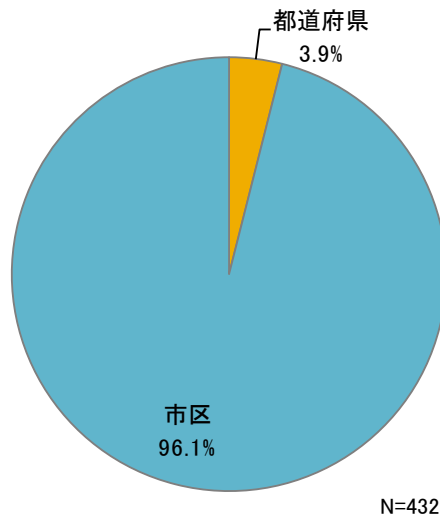
分類項目	件数(件)
予想される問題や課題	171
学校の理解・協力・調整	39
担当課の人手不足	22
学習内容・教材の検討	19
効果への疑問・効果の分かりにくさ	19
予算の確保	15
実施校・参加者の確保	14
交通事業者との調整	13
ノウハウ不足	10
庁内の理解、調整	8
公共交通が身近でない・利便性が低い	5
その他	7
支援してほしい事柄	193
学習プログラム・教材・ノベルティの提供	54
事例紹介	47
ノウハウ提供、相談体制、研修会	32
費用負担・補助	25
講師等人員の派遣	18
国への働きかけ	5
学校による主体的取組の促進	3
その他	9

3 回答自治体について

① 回答自治体

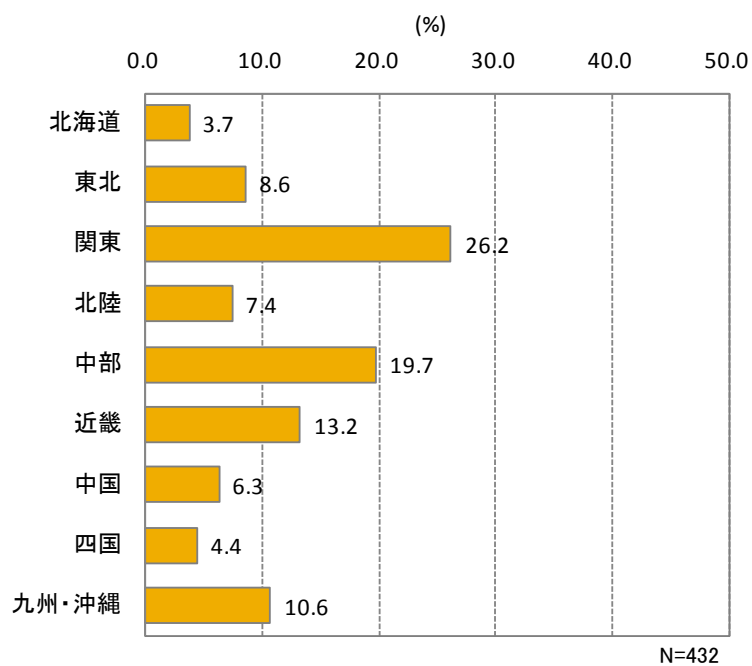
最後に、貴自治体やご回答者について教えてください

- 「都道府県」が3.9%、「市区」が96.1%となっている。
- 地方分類すると、「関東」が26.2%と最も多く、「中部」が19.7%、「近畿」が13.2%と続く。
- 人口規模をみると、「10万人未満」が58.6%と最も多く、次いで「10万人以上20万人未満」が18.8%、「20万人以上50万人未満」が13.9%、「50万人以上」が4.9%となっている。



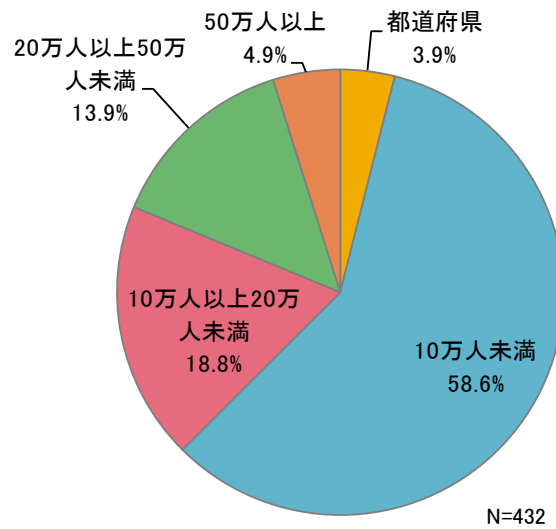
選択肢	今回調査		平成29年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 都道府県	17	3.9	32	6.4
2 市区	415	96.1	468	93.6
合計	432	100.0	500	100.0

図 回答自治体



選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
1 北海道	16	3.7	21	4.2	17	3.7
2 東北	37	8.6	47	9.4	43	9.4
3 関東	113	26.2	127	25.4	121	26.4
4 北陸	32	7.4	26	5.2	34	7.4
5 中部	85	19.7	91	18.2	67	14.6
6 近畿	57	13.2	77	15.4	62	13.5
7 中国	27	6.3	36	7.2	36	7.9
8 四国	19	4.4	18	3.6	22	4.8
9 九州・沖縄	46	10.6	57	11.4	54	11.8
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	2	0.4
合計	432	100.0	500	100.0	458	100.0

図 地方種別



選択肢	今回調査		平成29年度調査		平成28年度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
都道府県	17	3.9	32	6.4	21	4.6
1 10万人未満	253	58.6	281	56.2	266	58.1
2 10万人以上20万人未満	81	18.8	101	20.2	86	18.8
3 20万人以上50万人未満	60	13.9	61	12.2	57	12.4
4 50万人以上	21	4.9	25	5.0	26	5.7
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	2	0.4
合計	432	100.0	500	100.0	458	100.0

図 人口規模別

4 自治体アンケートまとめ

① 交通環境学習の取組み状況

- 交通環境学習を昨年度に実施した自治体は4割を超え、平成29年度調査に比べ7.0ポイント増加と、平成28年度から比べても年々増加傾向にある。今までに実施実績のある自治体は5割を超えており、都道府県の実施実績は7割を超え、市も5割超で、市では人口規模が大きいほど実施実績は高く、50万人以上の自治体では8割近くを占める。
- これまでに実施したことのない自治体でも交通環境学習への関心度は高く8割を超えるが、実際に取組みに向けて検討を行ったのは1割に満たない。
- 取組み方法は、自治体が学校に依頼して実施するケースが4割弱と最も多く、平成29年度調査と比較しても、6.5ポイント増加している。取組み内容は、小学校で「バスや電車等の体験乗車・乗り方教室」や「バスや電車等の乗り方の座学」として実施されているケースが多い。
- 今後については、「今年度に取組む」が3割を超え、「機会があれば取組む」をあわせると8割近くが取組み意向を示している。

② 交通環境学習の実施・継続に向けた課題や障壁

- 平成29年度調査で実施が確認された自治体に、交通環境学習を継続的に実施できる理由をお聞きしたところ、「学校や市町村、交通事業者等が主体となって実施している」、「自治体の方針や計画に位置づけられている」「効果が期待できる」といった回答が多くあげられた。具体的に期待する効果としては、「公共交通の利用促進・利用者増」が多くあげられている。
- 交通環境学習に取り組んでいく上では、「教材の準備などが大変」、「具体的事例を知る機会が少ない」、「具体的な取組内容がわからない」が、課題や障壁となっており、事例やマニュアルのほか、すぐに使える具体的教材が求められている。
- また、実施まで至らなかった理由としては、「担当課の人手不足」を半数以上の自治体があげしており、他に「取組方法がわからない」「効果が分からない」「教材の作成や準備が大変」といった理由となっている。引き続き様々な機会や手段での情報提供や情報発信が必要であることが伺える。
- 交通環境学習に取り組む場合に予想される問題点についての具体的回答としては、昨年度に比べ、交通事業者の協力関係や調整に関する意見が多く挙げられている。また、支援してほしい内容についても、学習指導要領に記載するなど、文部科学省による学校教育の中で取組める仕組みづくりといった声があがっている。

③ アンケート回答方法

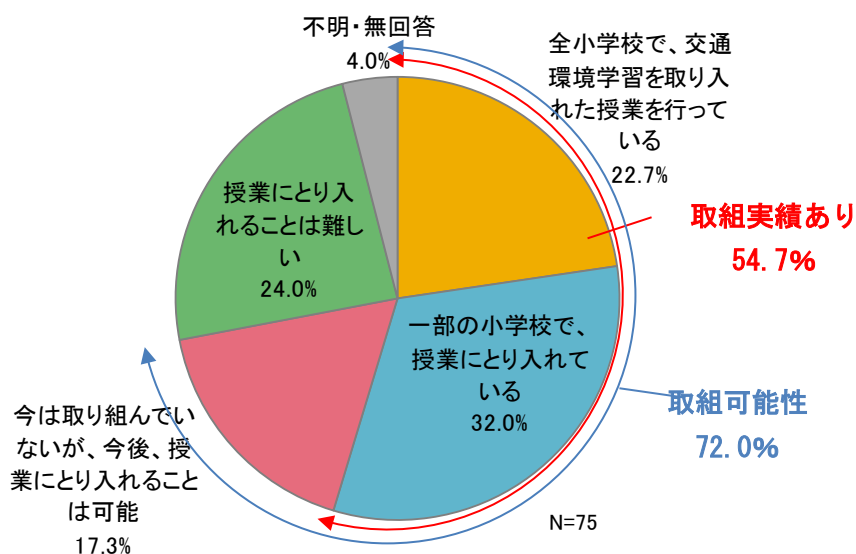
- 継続して簡易に調査できるアンケート方法の効果を検証するため、今年度調査では郵送による回収は行わず、インターネット、FAX、メールで回収することとしているが、郵送回収を設けていた昨年度調査に比べると回収率が少し低いものの、50%を確保できているため、今後も郵送以外の方法で調査をしていくことが可能であると言える。

(2) 教育委員会アンケート

1 「交通環境学習」の取組状況

問1 貴教育委員会が所管する小学校では、「交通環境学習」に取り組んでいますか？（近いもの1つに○）

- 交通環境学習の実施状況は、「一部の小学校で、授業にとり入れている」が32.0%と最も高く、次いで「授業にとり入れることは難しい」が24.0%、「全小学校で、交通環境学習を取り入れた授業を行っている」が22.7%、「今は取り組んでいないが、今後、授業にとり入れることは可能」が17.3%となっている。
- 全小学校または一部で授業を行っている取組実績のある教育委員会は54.7%と5割を超えており、「今は取り組んでいないが、今後、授業にとり入れることは可能」を含めて、7割以上で今後の取組の可能性が伺える。



選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)	(参考)配布数に対する割合 (%)
1 全小学校で、交通環境学習を取り入れた授業を行っている	17	22.7	2.0
2 一部の小学校で、授業にとり入れている	24	32.0	2.8
3 今は取り組んでいないが、今後、授業にとり入れることは可能	13	17.3	1.5
4 授業にとり入れることは難しい	18	24.0	2.1
不明・無回答	3	4.0	0.3
合計	75	100.0	8.7

図 「交通環境学習」の実施

問2 取組が行われている小学校の「交通環境学習」の代表的な事例をお答えください。
わかる範囲の記載で結構です。

○「地域の様子」や「公共交通や公共施設の利用」など社会科や生活科の単元での取組みが多いほか、環境と絡めた取組もみられる。

■地域の様子

学年	単元	内容
1,2	生活科・地域と生活	地域に関わる活動・地域の場所やそこで生活している人々の様子を考える地域探検などの際に、バスや鉄道の乗り方などについて体験する。
3	社会科・市の様子	鉄道や道路、市のバス路線のようすはどうなっているのか調べる。
	生活科・他	校外学習の移動手段として鉄道やモノレールを利用し、地域の交通網や利用方法等について理解を深めている。
3	総合学習	多摩都市モノレールの延伸誘致モノレールの利活用
3	社会科	まちの様子借り上げバスに乗車して市の様子を観察する。
4	社会科	東京都の交通網
3	社会	市の交通について学習する
4	総合学習	鉄道を利用し、琵琶湖を一周し、沿線で体験学習や交流を行う。琵琶湖を中心とした滋賀県の地理・歴史・自然についての学習、集団行動や公共マナー等の社会性の実践とともに、鉄道に親しむ機会を通じた鉄道利用の促進を目的としている。
6	総合学習 (わたしたちのくらしと交通)	クルマと交通機関の利用した際の所要時間や環境面の影響など、比較検証を行うとともに、遠足での市内巡りの際に、公共交通機関を利用した学習活動を実施。
3,4	社会科	土地や交通の様子

■公共物や公共施設の利用

学年	単元	内容
2	社会科	子どもたち自身が、駅の券売機で切符を購入し、改札を通り JR に乗って厚別区の青少年科学館まで行くことで、移動手段について考えることや、公共の場でのルールやマナーを身に付けることに繋がっている。
2,3	生活科、社会科	学区探検(2学年:生活科)やまち探検(3学年:社会科)の中で、公共のバスや鉄道を使った校外学習を行っている。
6	総合学習	学習旅行の行先で、バスや鉄道を使った探求的な校外活動を行っている。
3	総合学習	鉄道を利用し、地域の施設を訪問・見学し、地域の文化に触れる。
1	生活科 秋を見つけよう	鉄道を利用し、公園でどんぐりや落ち葉を採取し、授業に活かす
2	生活科 小さな旅出発	JRを利用して電車の乗り方、切符の買い方、公共の場でのルールやマナーを学ぶ
1,2	生活科・公共物や公共施設の利用	公共施設等の探検などの活動の際に、バス・電車を使った校外学習を実施する。
2	生活科 町たんけん	JR 烏山線乗車し、市内の施設・商店見学を行う。
2	生活科	様々な近隣の施設を使用し、公共交通機関も利用しながら、まちの良さに気付く活動。
	生活科・他	校外学習の移動手段として鉄道やモノレールを利用し、地域の交通網や利用方法等について理解を深めている。

学年	単元	内容
2	生活科「みんなであそぼうまちのしせつ」	バスや電車の乗り方(切符の買い方、運賃の支払い方、安全な乗車マナー等)
2	生活科「町のすてき大はっ見」	電車やバスを利用し公共施設へ出かけてそれを利用したりそこで人とかがわったりする。
2	生活科「水族館へ行こう」	鉄道を使って、水族館へ出かける。公共交通機関の利用の仕方や公共施設の利用のマナーを学ぶ。
2	生活科・乗り物遠足に行こう	遠足に行くための交通手段を考える。実際に駅・電車を利用して遠足を行う。電車や駅の様子、働く人について調べる。電車の乗り方のマナーを学ぶ。
2	生活科・電車に乗って遠足に行こう	実際に電車に乗る学習を通して、他の人への気配り、公共の場でのルールやマナーを学ぶ。
2	生活科	電車を利用した遠足を実施する。そのためのマナーを考え、実践する。公共の場でのルール、気配りを身につける。
2	生活科・乗り物遠足	乗車券の買い方、乗り降りや車内でのマナーを学ぶ。駅で働く人について、駅名を調べる。
1,2,6	乗り物遠足／修学旅行	鉄道とバスに乗車するための乗り降り、マナーを学習する。6年:東京都内でJRや地下鉄を電子マネーを使った乗車方法・マナーを学び、体験する。
1,2	生活科・乗り物遠足に出かけよう	バス・電車を使って遠足に行く。切符の買い方、改札の仕方を学習する。公共の場でのルール、マナーを身につける。
2	生活科	学校から路線バス、JRを乗り継ぎ、隣町の文化施設へ見学に行く。
2	生活科	市内施設(市立図書館・中央郵便局)見学に際して、市内循環バスを利用する。
3	社会科	社会科見学(店の見学)に際して、市内循環バスを利用する。
3	社会科	上記、事例2に同じ。
2	生活科	社会見学の一環で、JRへの乗車体験を行う。
2	生活 電車やバスで出かけよう	公共の乗り物(電車やバス)の利用の方法や、マナー、優先席などのマークについて学びます。
2	生活科	バスや列車の乗り方について体験をしたり、駅の工夫等を見学したりする学習
2	生活科・まちたんけん	校区内にあるバス営業所の見学 ・車両の見学や体験乗車 ・バスの役割と働いている人々の工夫 ・バス利用時のマナー
特別支援	福岡市科学館へ行こう	・バスや電車、地下鉄といった乗り物に切符を買って乗ったりICカードを使って乗ったりすることができるようにする。 ・車内でのルールやマナーを知り、実際の場面でできるようにする。 ・科学館のいろいろな展示にふれたり、イベントに参加したりするという、さまざまな体験をすることができるようにする。

■バスや電車の乗り方教室

学年	単元	内容
全	生活・総合学習	<バスの乗り方教室>・バスの運転席から見える範囲についての説明。・内輪差について、風船を設置し、実際にバスを走らせて実験を行った。・車いすでのバスの乗り方について。・バス停留所でのバスの行き先や時刻表や見方。・バスの乗り方について。(整理券をとって乗る。降りるバス停でボタンを押す。降りるときに料金を払う。等)
1	生活科	切符の買い方程度ですが…
全	校外(合同)学習	乗り物の正しい利用の仕方を理解することができる。
1~4	校外学習	自分で切符を購入し、鉄道を利用することができる。
全	児童会活動	バスの乗り方について
全	児童会活動	バスの乗り方について
2	特別活動	電車の乗り方について
2	生活科	鉄道の乗り方やマナーについての学習
5,特別支援	生活単元学習	鉄道やバスの乗り方やマナーについての学習

■環境と交通の学習

学年	単元	内容
5	社会科・理科・総合学習等	「交通エコロジー教室」事業・プロジェクターによる地球温暖化のメカニズムや交通とのつながりを学習・電気自動車の仕組みの説明と模擬授業体験・ハイブリッドバスの試乗体験学習等(毎年持ち回りで数校ずつ実施)
5	社会科	自動車工業の学習の単元の終末で、環境にかかわって自分たちの生活とつながりながら考える授業が設定されている。
6	総合学習(わたしたちのくらしと交通)	クルマと交通機関の利用した際の所要時間や環境面の影響など、比較検証を行うとともに、遠足での市内巡りの際に、公共交通機関を利用した学習活動を実施。
5	社会科「自動車をつくる工業」	プラグインハイブリッドカーや電気自動車、燃料電池自動車、ソーラーカー等を取り上げ、人と環境に優しい自動車づくりについて考える授業を実施している。
5	社会科「国土の自然とともに生きる」	環境を大切に作る町として日本全国や世界のお手本となるような「環境首都」を目指した取り組みや努力を続けているということ。その取り組みの一つとして電気自動車などの環境により自動車にふれる学習を行った。(10月5日)
5	社会科「自動車づくりにはげむ人々」	環境にやさしい自動車づくりについて学ぶ。ハイブリット自動車・電気自動車や水素自動車を見学し、環境を守るために技術が進歩し続けていることを知る。また、自分達にできるエコを考え、友達と交流し合う。(11月16日)
5	総合学習「わたしたちの町に森をつくろう」の学習と関連	① 行政と協力して、緑の回廊づくりを行うことを確認する。② 緑の回廊ができると、どんなよいことがあるか調べてまとめる。その際、過度な車の利用が地球環境問題を引き起こしていること等にふれ、自分たちが今後どうすればよいか考えることができるようにする。(10月2日)
5	社会科・自動車工業のさかんな地域	自動車メーカーが環境に優しい車の開発を進めていることを理解し、これからの地球環境を考えた自動車はどのような自動車が望ましいかを話し合う

■交通の仕事

学年	単元	内容
全	校外学習・修学旅行	バスやフェリー等の利用を通して、運輸に関連する仕事に従事している方々について知るとともに、公共交通機関を利用する際のマナー等を身に付ける。
3	総合学習「わくわく探検隊」	駅の様子や駅員さんの工夫など調べ発表する
2	生活科・まちたんけん	校区内にあるバス営業所の見学・車両の見学や体験乗車・バスの役割と働いている人々の工夫・バス利用時のマナー

■校外学習にあわせた体験乗車

学年	単元	内容
	総合学習等	フィールドワーク等を行う上で、公共の交通手段を利用し、その際に乗車のマナー等を行う等
6	総合学習 空港で英会話しよう	空港まで鉄道で行くとともに、空港内では来日中の外国人と英会話を楽しむ
2	生活科	校外学習 電車やバスの乗り方
一部	総合学習等	校外学習(遠足や宿泊学習等)の事前準備として、公共交通機関を利用する際のマナーなどについての学習を行っている。
2	生活科	校外学習時に自分で切符を買う体験を通して、鉄道の利用の仕方を学習する。
2	生活科	公共交通機関を利用して校外学習をする前に、ちよこっとバス等の利用を学習した。
1～4	校外行事	春の遠足で、JR列車による移動を体験する。

■その他

学年	単元	内容
5	社会・総合学習	公共交通機関の役割について考え、多様な交通手段の中から目的にかなった手段の選択ができるように、教育を実施している。具体的な授業方法としては、目的の場所まで移動するための行動プランを作成する等、実践的に取り組んでいる。
6	社会科新しいまちづくり	市のまちづくりに関心をもち、進んで調べ行政の仕事を理解する。
全	生活科(1・2年)、総合学習(3～6年)	平成28年熊本地震により、国道やJRが不通となった。現在、国道の別ルートとしてトンネル工事の掘削工事が行われており、平成32年に開通予定である。国土交通省と連携しながら、トンネル工事の掘削状況や掘削方法を学んだり、高速作業車の乗車体験をしたりするなどの学習を通して、車社会と生活との関連等の学習を全校児童が参加して行った。

問3 小学校以外（中学校、高校）での「交通環境学習」の取組があれば、下記にお答えください。

○小学校以外では、中学校による取組が多い。

取 組
中学校において、JRでグループごとに行き職業見学を行う。
中学校、3学年、総合的な学習、修学旅行での公共交通機関を利用した学習活動
中学校 3年修学旅行：公共交通機関の利用の仕方体験・マナー学習 中学校 特別支援学級：ソーシャルスキル体験学習
中学校では、修学旅行等において列車、バス等の公共の交通手段を利用しており、乗り方やマナー等について事前の指導を行っている。
特になし強いてあげれば、総合的な学習の時間で実施している学校がある可能性がある。
中学校 2年 総合的な学習「東京探検 公共交通の乗り継ぎ方を考えよう」
中学校の校外学習（遠足や宿泊学習、修学旅行等）の事前準備として、公共交通機関を利用する際のマナーなどについての学習を行っている。
全中学校の特別支援学級の生徒が、合同学習においてJRを利用して校外へ出かける。
中学校の修学旅行では、「班別自主研修」を行い、公共交通機関を選択し、目的地まで移動している。事前学習では、公共の場でのルールやマナーについて指導している。
小学校以外の学校においても、校外活動を実施する中で、路線バスや地下鉄などの公共交通機関を利用する際の乗り方や乗車マナー等について指導している。
①中学校 2年生（市内中学校）・校外学習におけるバスや鉄道の利用により公共交通の利用の仕方を学ぶとともに、訪問地の歴史等について学習をする。②中学校3年生・修学旅行におけるバスや鉄道の利用により、公共交通の仕組みや利用の仕方を身に付けるとともに、訪問地の歴史や環境について学習をする。
社会見学や修学旅行等で公共交通を利用する際に、利用の仕方やマナーについての学習はしているが、「交通環境学習」にあてはまらない。
中学校、1年の校外学習（総合的な学習の時間、学校行事）JRを利用して、市内中心部まで移動し、班別行動で中心部の施設見学等を行う。
一部中学校では、通学に鉄道の利用がある生徒がいる。そのため、公共交通の使用について指導する場面はあるが、特に教科等で取り立てた指導とはなっていない。
（学校名）全中学校（教科・単元）修学旅行（主な内容）バスやフェリー等の利用を通して、運輸に関連する仕事に従事している方々について知るとともに、公共交通機関を利用する際のマナー等を身に付ける。
職場体験学習や修学旅行等でスクールバス、民営バス、鉄道、フェリーなどを利用しており、座学で乗り方やマナーについて学んでいる。

2 貴教育委員の交通環境学習に対する考え方について

問4 貴市の教育方針と「交通環境学習」の親和性に関して、最も近いものはどれですか。
(1つに○)

- 「交通環境学習は、市の教育方針と、概ね合致していると思う」が49.3%と半数近くを占め、「交通環境学習は、市の教育方針と、とても合致していると思う」を含めると、合致していると考えている教育委員会が5割を超える。
- 「学校教育で、交通環境学習に取り組む意義がわからない」は5.3%と少なく、「交通環境学習の意義はわかるが、市の教育方針とは合致していない」は34.7%となっており、交通環境学習の意義を感じている教育委員会は8割を超えている。

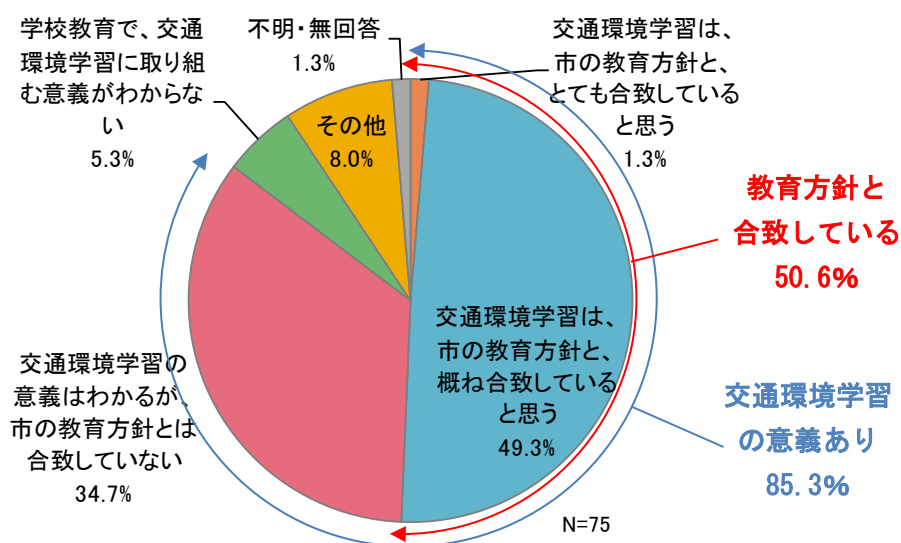


図 自治体の教育方針と「交通環境学習」の親和性

問5 交通環境学習と合致する「市の教育方針」とは、どのような内容でしょうか。
(簡単で結構ですので、お書きください)

○市の教育方針における交通環境学習と合致する点としては、「地域学習や郷土への愛着誇りの醸成」、「公共の意識（社会性）の育成」、「生きる力・考える力の育成」といった点が多くあがっている。

■地域学習や郷土への愛着誇りの醸成

取組
地域資源を活用した教育活動の推進・地域に貢献する教育活動の推進・地域への愛着や誇りを育む教育の推進
「共生」の視点 ふるさとの自然や文化・人々を大切に、共に生きようとする豊かな心や態度をもてる人づくり。
本市の教育目標「郷土の理解を深め、郷土を愛する心を養う」とほぼ合致しています
ふるさと学習につながるものがある
「市の環境や風土を生かした学習の推進」
「ふるさと創生」の担い手を育成
ふるさとしに誇りを持つ人を育む
市の教育の重点 ・重点目標 4「ふるさとを愛する心や社会の変化に対応する力をはぐくむ」中の取組課題に合致する内容がある。
地域の様子を知り、地域について考え、地域に参画する力を高める
主要施策の1つとして地域との協働による学校づくりを掲げ、地域の教育資源（自然、伝統文化、人材等）の活用と合わせて公共交通機関の利用を促す。
地域を学ぶ教育（郷育）
自然や人間・文化に学び、ふるさとを愛する人を育むこと
「郷土を愛する」という記述

■公共の意識（社会性）の育成

取組
志教育の一環としての道徳性の涵養
市民の一人としての公共の意識の醸成
環境教育、公共の場でのルールやマナー
社会の一員として共に支えあい、よりよい社会を築いていく力の育成
豊かな心と社会性の育成
・持続発展教育（ESD）今と未来を生きる全ての人のことを考え、よりよい社会づくりに加わろうとする心と態度を育てる。
・のりものを題材にした学習 環境や社会に意識を向け、自発的に考えて行動できる「将来の市民」を育成する教育
「人や社会、環境にやさしい」という観点を大切に主体性ある子どもを育成していきたいという点
本市の学校教育において重視する視点に「公共の精神に基づく態度の育成」を掲げており、社会におけるルールや法の重要性等についての教育を徹底し、公共心や公德心を育むことを目標としている。
「豊かな人間性の育成」道徳心を培い、心の通う人間関係を構築する能力を養う中で、自己や他者への理解を深め、生命を大切にすることや正義感、責任感をはぐくむとともに、ものや自然に感動する豊かな感性を育てる。
まち全体で人を育む「つなぐ力」を培う。「つなぐ力」は、個人の学びから一歩踏み出し、学びの成果を広く社会の中に活かすことのできる基礎となる力であり、長い歴史に裏打ちされた、子どもたちを育てていく地域社会そのものともいえます。
重点取組事項の3つの柱の1つとして「全小・中学校による共通実践（小中の連携した取組）」を掲げ、以下の2つを共通取組事項としている。[豊かな心を育みます][健やかな体を育みます]この2つで、道徳教育の充実や望ましい生活・運動習慣の形成を目標としています。交通環境学習も含まれると考えています。
ふれあいと連帯の心を養い、人権を尊重する人を育むこと
SDGsの視点を取り入れ、「人や社会、環境にやさしい」という観点から自分たちの生活を見直し、改善していくために自発的な行動をとれるような人間を育てる（力を育む）ところ。

■生きる力・考える力の育成

取 組
幅広い知識と教養を身に付ける。
「豊かな人間性の育成」を目指して、様々な体験的活動を通じて心豊かな児童・生徒を育てる、ということ。
生活体験をもとにした、主体的・対話的な活動
・全国トップクラスの学力を基礎に育む多様な力 ・心身共に健全な将来世代を育む家庭・地域・学校の連携
生きる力を育む教育課程の編成において、環境教育や地域学習等の内容と関連を図ることができるとともに、教科横断的に交通環境学習の視点を扱うことができる。
学校教育の充実 時代の要請に応える教育の推進 キャリア教育の推進
児童生徒の個性を生かし、一人一人に「生きる力」を育む教育を推進する
3つの柱の1つ「子どもが育つ」自らに誇りを持ち、多様で変化の激しい社会を生き抜く力を伸ばす取組。
市の教育の重点 ・重点目標 2「豊かな心と温かい人間性を育て、人間としてよりよい生き方を身に付けさせる」中の取組課題に合致する内容がある。
柔軟に物事をとらえ的確に判断し、行動する力の育成
生涯にわたって学び、自立して生きる力を持つ人を育むこと ・生命の尊重と健康の増進に努め、しなやかな心身を持つ人を育むこと
自ら課題を見付け、その課題を解決・改善するために自発的な行動がとれる人間を育てる点。

■環境意識の形成

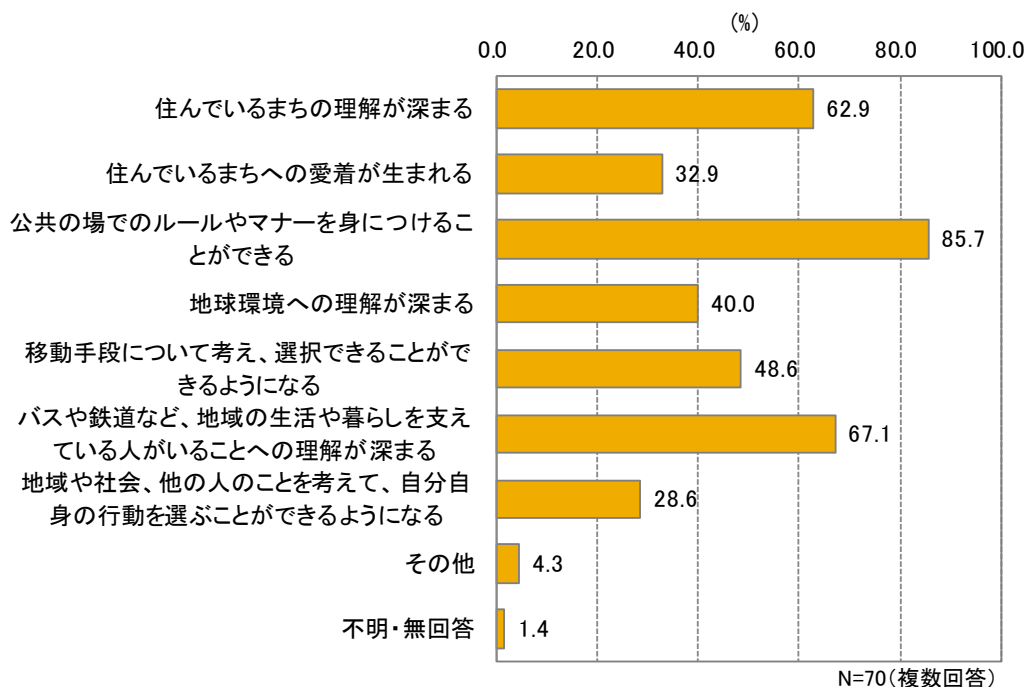
取 組
市の環境作りを進めるための環境基本計画の中で、『人と自然と産業を育てる』を長期的目標として掲げており、その基本政策の中で、環境意識の形成と情報の共有化の推進について取り組んでいます。
環境教育、公共の場でのルールやマナー
本市では「教育プラン」の基本方針の中で、学校版環境 ISO の推進を掲げており、すべての幼稚園・こども園、小・中学校でエコ活動の合言葉を決めに取り組んでいる。目的及び期待効果の実現には、継続的な取組が重要であるため、PDCA サイクルによる改善を図りながら、環境活動を進めているが、交通環境学習も同じ視点で取り組んでいる。

■その他

取 組
学力向上
特色ある学校づくりの推進
本市では、交通網の整備は市の施策と合致する。
体験活動の充実
遠距離でバスや電車を利用する学校も多いので必要である。

問6 「交通環境学習」には、どのような効果があるとお考えですか（いくつでも）

○「公共の場でのルールやマナーを身につけることができる」が85.7%と最も高く、次いで「バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる」が67.1%、「住んでいるまちの理解が深まる」が62.9%となっている。

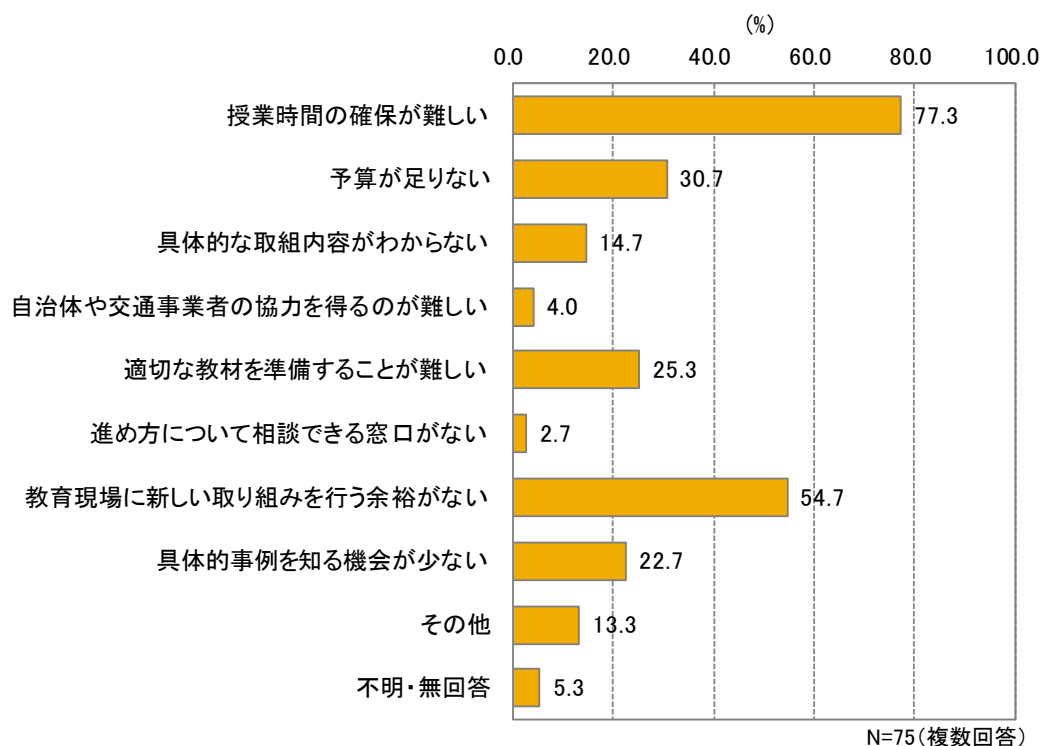


選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)	(参考)配布数 に対する割合
1 住んでいるまちの理解が深まる	44	62.9	5.1
2 住んでいるまちへの愛着が生まれる	23	32.9	2.7
3 公共の場でのルールやマナーを身につけることができる	60	85.7	7.0
4 地球環境への理解が深まる	28	40.0	3.3
5 移動手段について考え、選択できるようになる	34	48.6	4.0
6 バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる	47	67.1	5.5
7 地域や社会、他の人のことを考えて、自分自身の行動を選ぶことができるようになる	20	28.6	2.3
8 その他	3	4.3	0.3
不明・無回答	1	1.4	0.1
合計	70	100.0	8.7

図 「交通環境学習」の効果

問7 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

○「授業時間の確保が難しい」が77.3%と最も高く、次いで「教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない」が54.7%、「予算が足りない」が30.7%となっている。



選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)	(参考)配布数 に対する割合 (%)
1 授業時間の確保が難しい	58	77.3	6.7
2 予算が足りない	23	30.7	2.7
3 具体的な取組内容がわからない	11	14.7	1.3
4 自治体や交通事業者の協力を得るのが難しい	3	4.0	0.3
5 適切な教材を準備することが難しい	19	25.3	2.2
6 進め方について相談できる窓口がない	2	2.7	0.2
7 教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない	41	54.7	4.8
8 具体的事例を知る機会が少ない	17	22.7	2.0
9 その他	10	13.3	1.2
不明・無回答	4	5.3	0.5
合計	75	100.0	8.7

図 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁

■ 「9. その他」の主な課題や障壁

- ・教育課程にないので、各教科の一部に関連させ、指導計画を立てなくてはならない。
- ・交通の便がよくないため、学習に取り入れづらい
- ・当市には、山間地にある学校も多く、公共交通機関の利便性が乏しい
- ・乗り物が身近でないため
- ・どの教科のどの時間におとしこんで行うか
- ・他の団体からもいろいろな(〇〇学習)が学校に期待されている
- ・市町村教委や学校の実態により様々と考える
- ・公共交通機関の便数が限られ、時間に制約がある。
- ・学校の規模や設置場所によって取組内容が異なる。
- ・児童数の多い学校は実体験が難しい、切符を買う等は前もって練習ができない、学習指導要領の目標や内容との合致

問8 貴教育委員会としては、「交通環境学習」を普及・推進することに対して、どのように思われますか。

○効果・重要性を感じるという意見が多くみられるが、積極的に取り組んで行くには、授業時間の制約や教育現場の負担など、課題が多いという意見が多くみられる。

■積極的に取り組んでいく

意見
市の基本政策と合致するところであり、今後とも積極的に取り組んでいきたい。
特に時間を設定したりはせず、各教科・行事等と関連させて取り組む。
地域力を生かした学校づくりと学校力を活かした地域づくりの視点から、地域の公共交通機関を利用した活動を今後も続けていきたい。
児童が、公共交通の魅力学ぶことで、公共交通の必要性を理解し、将来、環境や社会のことを考え、自発的に移動手段を選択できる意識をもつことを目指しています。また、持続発展教育(ESD)と非常に近い考え方をしています。そのためESDの一環として身近な公共交通を題材にした教育に取り組むことを推奨しています。
「人や社会、環境にやさしい」という観点から見直し、改善していくために自発的な行動をとれるような人間を育てる(力を育む)ことを目指した「交通環境学習」の普及・推進は、社会の一員として必要な公共心や公德心を育む上で有益であると考え。普及にあたっては、家庭・地域との連携も含め、学校教育活動全体を通して、例えば関連した授業や教育活動の中で指導するなど、効果的な取組が推進できるよう工夫する必要がある。

■効果・重要性を感じる

意見
地域事情として自家用車が日常の主な移動手段ではあるが公共交通について学び、その重要性や利用時のマナーを身につけるといことは意義のあることと考える。
交通環境学習を普及・推進していくことは重要であるが、交通環境学習を行うにあたっては、授業時間の確保や予算など課題があるため、今後、課題を解決できるような方法を模索し、推進していきたい。
生活科において公共交通機関を活用した学習が行われているが、身近な環境問題を考える上で、交通環境学習の切り口は有効であると思われる。
地方では公共交通の果たす役割は大きいものがあります。これから高齢化にともないますます重要になってくると感じました。
教育現場の負担にならないように、既存の教育活動と絡めて実施したい。
様々な「〇〇教育」が次々と新たに要請されていく中で、学校の負担軽減を考慮に入れながら、「取捨選択」して新しい教育に取り組んでいくことが必要である。よって、「交通環境学習」についても、他の教育内容とのバランスを図りながら教育課程への組み込みを検討していくことが重要であると認識している。
学校で啓発することには大変意義があることと考える。時間があり、教科等に位置づけられていることで、学習内容に入れやすいと思う。また、家庭と連携して、家庭でも生かせるように位置づけられるとよいと考える。
児童生徒が公共機関や地域のことを学ぶよい機会であると考え。現在の教育課程に新たに取り入れるには学校現場に負担になると考える。実施の判断は学校に任せていきたいと考える。
地域によるが、電車・バスの整備網が不十分である地域では、それらの活用が地域住民の暮らしを支えていることから、児童・生徒が十分に理解を深めることが必要であると思われる。本市としても、同様のことから推進をしていくことには賛成である。
交通環境学習は、ESD(持続可能な開発のための教育)の推進にあたって重要となっているが、教職員の多忙化解消や学力向上に向けた授業改善の推進が急務で、授業時間や授業者への事前研修の時間の確保等を考慮しながら、本市としても関係各課と連携して実施していきたいと考えている。
各学校の実態に応じて実施していくことになると考えている。内容としては意義のあることなので普及させていくという方向性は間違っていないと考える。
乗り物への興味、働いている人への理解、移動手段としての役割等を学習することは、とても大切なことである。
現在、市交通政策課において、公共交通の現状や重要性など、公共交通について考える機会を提供していく取組を進めており、教育課程との関連を図りながら交通環境学習の視点を学校教育の中に活かしていくことは重要であると考え。

意見
<p>新学習指導要領では、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められており、ESDを意識した日常的な教育が求められている。あわせて、教科横断的に子供の資質・能力の向上が求められている。このような視点からも体験的な活動を通し、自発的な行動がとれるような力を育むことを目指した教育活動は、これから必要になると思われる。</p>
<p>心豊かにたくましく生きる子供の育成を推進していく上で、地域を知る、地域と関わる、地域へ出る体験学習は重要であると考えます。</p>
<p>すばらしい取組だと思えます。学校のニーズを的確に把握し、何ができるか模索していくことが必要だと思えます。</p>
<p>各校の実態や願いに応じて対応していきたい。</p>
<p>環境学習の一部として、「交通環境学習」を取り入れることには、意義があると考えます。管轄する小中学校の地域には、交通量の多い地域や公共交通機関を大いに利用している地域もあると考えられるので、地域の実態に応じて環境学習の一つとして教育課程に取り入れることは可能であると考えます。</p>
<p>交通環境学習に取り組むことにより、それぞれ居住する地域の交通機関の発達の歴史を知ることができる。そのことにより現在の交通機関の利便性だけでなく、今後の課題についても考える重要なきっかけとなる。</p>
<p>現在でも社会見学や修学旅行等で公共交通を利用する際に、利用の仕方やマナーについての学習はしている。ここに「交通環境学習」の概念が入れば、より内容の深い学習になると思われる。学校では新しく取り組むべき内容が多すぎて大変だが、教員が研修し、学習を進めていくことは大切である。</p>
<p>今後、環境教育の内容の一つとして取り組みを進めることは可能であるが、現状では各学校に「交通環境学習」の事例や取り組みを紹介し、学校の実態に合わせて取り組んでもらうことしかできないと思う。</p>
<p>まちづくりと交通を考える学習は、地方の課題に正面から向き合う内容でとても意味深いと思う。一方で、課題の理解に終わり、自分たちに何ができるのかをとらえさせるにはテーマが大きすぎる。</p>
<p>新たに授業や事業を立ち上げるのは、学校には負担となるため、いかにカリキュラムに位置づけ他教科とうまく絡めていくことができるかによって、普及や推進ができると考えている。指導する現場の教員の意識が大切。</p>
<p>生活科の学習や遠足などの学校行事をかねながら実施することで、より効果的で、充実した学習になると思われます。</p>
<p>移動手段や交通流動について学習することは大変有効であると思うが、新たな教材として取り組むことは授業時数確保の面からも難しい。社会科をはじめとする既存の教材と関連付けて取り組む方向で考えている。</p>
<p>本市の施策、環境教育の推進に合わせながら活用を図りたい。</p>
<p>交通環境学習を推進することにより、公共のマナーやルールを学ぶことができるだけでなく、地球の環境問題や自分の住んでいるまちを身近に感じることができるようになり、児童生徒の考え方や行動にも効果があると考えます。しかし、教職員の中での交通環境学習に対する意識が低いことや年間を通した指導ではないことから、取り組んでいく上での課題も多く、積極的に学習を推進していく段階には至っていない現状である。</p>
<p>AI社会といわれる次世代に生きる子供達が交通環境学習を行うことで、交通社会に関する知識や身の回りの交通に関する知識を習得し、望ましい交通社会の実現に向けて自発的に参加しようとする態度を育てることができる。</p>

■ 取組みは難しい

意見
<p>現在は余裕がありません。</p>
<p>学習指導要領に位置づけられていなければ、普及・推進は難しいと感じる。</p>
<p>学習指導要領に示されている内容に付随する形で交通環境学習の内容に触れることができる。したがって、公共交通を中心教材として用いる学習は、ニーズがあるところへの普及・推進で十分と思う。</p>
<p>小・中学校において他の学習を行う上での手立て(手段)として交通機関を利用する機会はある。(多くの学校で行っている。)その際に、乗り方や公共のマナーについて触れることも行っている。交通環境学習を主たる目的とした授業を行うことは、授業時間の確保の上等で厳しいのが現状である。</p>
<p>現段階で教育課程を作りかえることは難しい。</p>
<p>現状の範囲で行うことが精一杯の授業時数であり、時間数を増やして推進することは難しい現状である。</p>
<p>教育委員会と自治体が連携することで、教育的効果が高まることは理解しています。しかし、新しい取り組みを教育委員会として普及・推進するとすると、受け入れる学校側では、既存の教育課程の何かを縮小しなくてはならなくなり、地域に根差した学校独自の魅力を打ち出すこと推進している本市としては、一律に普及させることに難しさがあります。環境学習に力を入れている学校に対しては連携して行うことは可能だと思えます。</p>
<p>交通環境学習の重要性は理解しているが、授業時数や予算等より普及・推進は困難だと思われる。</p>

意見
現時点では、外国語教育・プログラミング教育の推進が急務で業務改善の中これ以上新しい内容を増やせない大切な道徳的価値に基づく教育やグローバルな視点で物事を捉えていく教育においては大切であるが、既に1. 2年生の生活科や小学校3年～6年及び中学校においては総合的な学習の時間の学習計画が確立されており、取り入れていくことが難しい。
予算が足りないため、現時点で導入は検討していません。
小学校では社会科の学習の一環として、市や県の交通について、輸送手段としての交通について、環境問題と交通の関係等の学習を実施している。現在のこの教育課程以上にプラスして取り組むことは難しい。
交通網が発達している大都市では進めやすいと思いますが、当市のようにバス網が衰退している(1日に数便しか来ない路線が多い)地域では普及推進は難しいと考えます。生活科や学校行事(遠足等の片道)で利用体験しながらルールやマナーを身に付けるといった現状から、社会や環境にやさしいというところまでもっていくのは難しいと思います。
交通環境学習の意義も理解できるが、問7で回答したように課題が多い。
指導要領が示す内容を実現できる題材であれば、取り入れていけばよいと思う。・授業の結果が〇〇学習とつながっていくのであって、〇〇学習のための授業をすることはむずかしい。
授業時数、予算等により実施は厳しい
環境のことなどを考えると交通環境教育は大切な事柄と考えるが、地域柄、自動車利用が主である地域であるため普及、推進の難しさがある。
現在、小学校は道徳科の導入や外国語活動の拡大や英語の教科化、プログラミング教育等、中学校も大学入試・高校入試改革を受けた教育活動の見直し等、多忙を極めております。とくにこの数年は新学習指導要領完全実施にむけて、増えることが多い状況ですので(といいながら”働き方改革”も言われております)、意義あることとは思いますが、厳しい状況にあります。※外部と連携することで学校・児童生徒の負担を軽くしながら…ということなら、可能性はあるかもしれません。
普及・推進していくことは良いことだと考えるが、新たな取組としては始めることは難しい。具体的事例を知ること、今行っている実践を深めることはできるかもしれない。
上に書いたように、学校の教育内容、学習内容は飽和状態であり、新たなものを取り入れる余裕がない。ただ、今やっていることを見直す1つの視点として、示唆に富んでいると感じる。
普及・推進の意義については理解できるものの公共交通の利便性に乏しい地域にある中、なかなか具体的な実践に結びつけにくい状況にある。
地域の実態等、ニーズも様々と考えられるので市町村教委や学校の判断に任せており、県として積極的には現在取り組んでいない。
一部の小学校で「交通環境学習」を授業に取り入れている、という現状を直ちに大きく変更することは困難と考えている。市内循環バス停留所やJRの駅に隣接している等立地条件が学習の普及・推進に影響すると考えている。
学校は「環境」をテーマにすでに学習への取り組みを行っており、「環境」という大枠の中で児童生徒が課題を見つけ学んでいくことを推進している。その中において「交通環境学習」に特化した取り組みというものは、現時点では地域の実態に合わない面があることも現実である。
小学校では、平成32年度から、学習指導要領が全面実施されるにともなって、外国語活動の強化、プログラミング教育の実施、また、現在道徳の教科化への対応等、子どもたちへ学ばせる内容が大幅に増えており、対応に苦慮しているところである。交通環境学習の主旨に賛同することはできるものの、実際に普及させることは難しいと考える。

■その他

意見
推進する上では、交通環境学習を通して、身に付けさせたい資質・能力を明確にすることが大切であると思われる。
今後、調査研究を行う
まずは、具体的事例を知る機会の設定が必要である。
今後、検討していきたい。
地域柄、公共交通機関が子供たちにとって身近ではありません。「交通環境学習」を普及・推進するためには、保護者・地域を巻き込むとともに、様々な機関との連携が必要だと思えます。
他市町村の取組の様子を注視してまいります。

3 教育委員会アンケートまとめ

① 交通環境学習の取組み状況

- 今回のアンケートは、回収率が 8.7%と高くないため、傾向の解釈には留意が必要であるが、交通環境学習を実施しているが5割は超えており、全小学校で取り組んでいる教育委員会も2割強となっている。今は取り組んでいないが今後取り入れることは可能も含めると、7割以上で今後取組の可能性が伺える。
- 取組は社会科や生活科の「地域の様子」や「公共交通や公共施設の利用」などの単元のほか、環境と絡めた事例が多い。

② 交通環境学習に対する考え方

- 5割の教育委員会で交通環境学習が市の教育方針と合致していると考えており、交通環境学習の意義を感じている教育委員会は8割を超える。
- 教育方針と合致する内容として「地域学習や郷土への愛着誇りの醸成」、「公共の意識（社会性）の育成」、「生きる力・考える力の育成」といった点が多く上がっており、交通環境学習は教育方針との親和性が高いと考えられる。
- 交通環境学習の効果としては、「公共の場でのルールやマナーを身につけることができる」が8割を超えるほか、「バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる」、「住んでいるまちの理解が深まる」がそれぞれ6割を超えている。
- 取り組んでいく上での課題や障壁としては、「授業時間の確保が難しい」との回答が最も多く、「教育現場に新しい取組を行う余裕がない」が続くなど、学校の忙しさに関する意見が多くなっている。
- 交通環境学習の普及推進に対する考え方の自由記述からも、効果・重要性は理解するが、積極的に取り組んで行くには、授業時間の制約や教育現場の負担など、課題が多いという意見が多くみられる。

<資料編>

1. アンケート調査票及び依頼文

1-1 : H29 年調査で交通環境学習の取組が確認された自治体用

※ここでは市用に作成された
B-1 調査票を示す。

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、「学校と連携した交通と環境問題に関する授業や児童や生徒等を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」のより一層の普及を目的として、今年度も引き続き、全国の自治体での取組状況や課題等を把握するためのアンケート調査を実施することとなりました。

なお、集計結果は、交通環境学習ポータルサイト (<http://www.mm-education.jp/>) での公表を予定するとともに、ご回答いただいた自治体の方には、本調査の集計結果や交通環境学習関連情報をご提供させていただきます。（昨年度の結果はポータルサイトからダウンロードできます）

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

「交通環境学習」とは？

「バス」や「鉄道」などを教材に用いた学習のこと。

交通環境学習の
授業内容例

- ・バスや鉄道の乗り方教室
- ・公共交通を題材とした地球環境問題の学習
- ・環境学習の一環としてのバス・電車を使った校外学習
- ・公共交通を題材としたまちづくり学習
- ・交通すごろく（すごろくゲームで交通と環境問題や渋滞との関係を学習）
- ・フードマイレージ（買物ゲームで輸送時の環境負荷を学習） など

■記入上のご注意

この調査票は、平成29年度に交通環境学習に取り組んだと回答された自治体にお送りしています。
ご回答は、「交通環境学習」に取り組まれた場合は、その内容をご存じのご担当者様、
取り組まれていない場合は、公共交通計画等の関係部署のご担当者様をお願いいたします。
なお、今年度は、教育委員会にも同様のアンケートを別途配布しています。

■回収の期日

アンケートは、**12月21日（金）**までに、回答願います。

■調査票の回収方法（A～Cのいずれかの方法で返送ください）

A. インターネット 下記交通環境学習ポータルサイトにアクセス後、回答画面にて入力できます

交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>

B. FAX 記入後の調査票を **FAX 06-4796-8509** まで返信

C. メール エコモ財団ホームページから調査票をダウンロードいただき、
記入後の調査票を info@mm-education.jp まで返信

【問い合わせ先】 交通エコロジー・モビリティ財団（担当：岡本）／TEL 03-3221-7636

■調査会社（調査票の配布・回収）

地域未来研究所（担当：貞松、田子）／TEL 06-4796-8502

■ 貴自治体での平成 29 年度の「交通環境学習」の実施状況について

問 1 貴自治体では昨年度（平成 29 年度）に、「交通環境学習」を実施しましたか？（1つに○）
※学校からの依頼で行ったものや交通事業者や運輸局等の取組に協力して実施したものも含まれます。

1. 実施した →副問 1.1へ
2. 過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった →副問 1.2へ

副問 1.1 問 1 で「1」とお答えの方にお伺いします。

「交通環境学習」を継続的に実施できる理由は何ですか？（いくつでも）

1. 効果が期待できる
(具体的に期待している効果は何ですか：)
2. 学校や都道府県、交通事業者等が主体となって実施している
3. 学校からの要請がある
4. 自治体の方針や計画に位置づけられている
5. その他（具体的に：)

→副問 1.1 のあとは、問 2 へ

副問 1.2 問 1 で「2」とお答えの方にお伺いします。

昨年度、「交通環境学習」を実施しなかった理由は何ですか？（いくつでも）

1. 取組方法がわからない
2. 担当部課の人手不足
3. 予算が確保できない
4. 効果が分らない
5. 学校の協力が得られない
6. 教材の作成や準備が大変
7. その他（具体的に：)

→副問 1.2 のあとは、3 ページの問 4 へ

問 2 昨年度、貴自治体で取り組まれた「交通環境学習」の実施方法についてお伺いします

(1)それは、学校の授業の一環として実施しましたか？

1. 実施した →副問 2.1へ
2. 実施していない →(2)へ

副問 2.1 (1)で「1」とお答えの方にお伺いします。

授業の実施主体をお答えください。（いくつでも）

1. 貴自治体が学校に依頼して実施
2. 自治体指定の共通カリキュラムを学校で実施
3. 各学校が独自カリキュラムで取組
4. 出前講座として学校からの依頼に対応
5. 国や都道府県、交通事業者等が主体となり実施
6. その他（具体的に：)

(2)それは、イベント（フォーラム、バスまつり等）として実施しましたか？

1. 実施した →副問2.2へ
2. 実施していない →(3)へ

副問 2.2 (2)で「1」とお答えの方にお伺いします。
イベントの実施主体をお答えください。(いくつでも)

1. 貴自治体が主体となり実施
2. 国や都道府県が主体となり実施
3. 交通事業者が主体となり実施
4. その他（具体的に： _____)

(3)それは、授業やイベント以外にどのような方法で実施しましたか？

具体的に： _____

問 3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？（枠内の該当する部分に○をご記入ください）

	内 容	対象者				
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他
座学	バスや電車等の乗り方の座学					
	地球環境問題と交通に関する座学					
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室					
	交通すごろく※1					
	フードマイレージ※2					
その他	（具体的に： _____)					
	（具体的に： _____)					

※1 交通すごろく：すごろくゲームで、交通と環境の関係を学習

※2 フードマイレージ：買物ゲームで輸送時の環境改善を学習

■ 今後の「交通環境学習」について

問 4 今後、「交通環境学習」に取り組む予定はありますか？（1つに○）

1. 今年度（平成 30 年度）に取り組む
2. 予定はないが、機会があれば取り組む
3. 取り組まないと思う
4. 今後はわからない

図 交通環境学習の取組が確認された自治体用調査票(3/4)

問5 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

1. 教育委員会の理解が得られない
2. 具体的な取組内容がわからない
3. 学校の協力が得られない（アプローチの仕方がわからない）
4. 交通事業者の協力が得られない
5. 期待した効果が得られない
6. 教材の準備などが大変
7. 進め方について相談できる窓口がない
8. 具体的事例を知る機会が少ない
9. その他（具体的に： _____）

問6 今後、貴自治体において「交通環境学習」に取り組む場合に、予想される問題点や、支援して欲しい事柄などについて、具体的に教えてください。

具体的に：

■貴自治体やご回答者について

- 本アンケートのご回答者 ※不明点などについて、お問い合わせさせていただく場合があります。

自治体名				担当部署	
氏名				役職	
TEL		FAX		e-mail	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
アンケートは、**12月21日（金）**までに、
インターネット、メール、FAXのいずれかで返送願います。

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、「学校と連携した交通と環境問題に関する授業や児童や生徒、学生を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」のより一層の普及を目的として、今年度も引き続き、全国の自治体での取組状況や課題等を把握するためのアンケート調査を実施することとなりました。

なお、集計結果は、交通環境学習ポータルサイト (<http://www.mm-education.jp/>) での公表を予定するとともに、ご回答いただいた自治体の方には、本調査の集計結果や交通環境学習関連情報をご提供させていただきます。（昨年度の結果はポータルサイトからダウンロードできます）

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

「交通環境学習」とは？

「バス」や「鉄道」などを教材に用いた学習のこと。

交通環境学習の
授業内容例

- ・バスや鉄道の乗り方教室
- ・公共交通を題材とした地球環境問題の学習
- ・環境学習の一環としてのバス・電車を使った校外学習
- ・公共交通を題材としたまちづくり学習
- ・交通すごろく（すごろくゲームで交通と環境問題や渋滞との関係を学習）
- ・フードマイレージ（買物ゲームで輸送時の環境負荷を学習） など

■記入上のご注意

この調査票は、平成29年度に交通環境学習の取組が確認されていない自治体にお送りしています。
ご回答は、「交通環境学習」に取組まれた場合は、その内容をご存じのご担当者様、
取組まれていない場合は、公共交通計画等の関係部署のご担当者様をお願いいたします。
なお、今年度は、教育委員会にも同様のアンケートを別途配布しています。

■回収の期日

ご記入頂いた調査票は、**12月21日（金）**までに、送付願います。

■調査票の回収方法（A～Cのいずれかの方法で返送ください）

A. インターネット

下記交通環境学習ポータルサイトにアクセス後、回答画面にて入力できます

交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>

B. FAX

記入後の調査票を **FAX 06-4796-8509** まで返信

C. メール

エコモ財団ホームページから調査票をダウンロードいただき、
記入後の調査票を info@mm-education.jp まで返信

【問い合わせ先】 交通エコロジー・モビリティ財団（担当：岡本）／TEL 03-3221-7636

■調査会社（調査票の配布・回収）

地域未来研究所（担当：貞松、田子）／TEL 06-4796-8502

■ 貴自治体での平成 29 年度の「交通環境学習」の実施状況についてお伺いします

問 1 貴自治体では昨年度（平成 29 年度）に、「交通環境学習」を実施しましたか？（1つに○）

※学校からの依頼で行ったものや交通事業者や運輸局等の取組に協力して実施したものも含まれます。

1. 実施した →問 2へ
2. 過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった →副問 1.1へ
3. これまで実施したことがない →副問 1.1へ

副問 1.1 問 1 で「2」、「3」とお答えの方にお伺いします。

(1) 「交通環境学習」に取組む意向はありましたか？（1つに○）

1. 取組に向けて検討したが断念した
2. 関心はあったが検討しなかった
3. 関心もない

(2) その主な理由は何ですか？（いくつでも）

1. 取組方法がわからない
2. 担当部課の人手不足
3. 予算が確保できない
4. 効果が分らない
5. 学校の協力が得られない
6. 教材の作成や準備が大変
7. その他（具体的に： _____）

→副問 1.1 のあとは、3 ページの問 4 へ

問 2 昨年度、貴自治体で取り組まれた「交通環境学習」の実施方法についてお伺いします

(1) それは、学校の授業の一環として実施しましたか？

1. 実施した →副問 2.1へ
2. 実施していない →(2)へ

副問 2.1 (1) で「1」とお答えの方にお伺いします。

授業の実施主体をお答えください。（いくつでも）

1. 貴自治体が学校に依頼して実施
2. 自治体指定の共通カリキュラムを学校で実施
3. 各学校が独自カリキュラムで取組
4. 出前講座として学校からの依頼に対応
5. 国や都道府県、交通事業者等が主体となり実施
6. その他（具体的に： _____）

(2)それは、イベント（フォーラム、バスまつり等）として実施しましたか？

1. 実施した →副問2.2へ
2. 実施していない →(3)へ

副問 2.2 (2)で「1」とお答えの方にお伺いします。
イベントの実施主体をお答えください。(いくつでも)

1. 貴自治体が主体となり実施
2. 国や都道府県が主体となり実施
3. 交通事業者が主体となり実施
4. その他（具体的に： _____)

(3)それは、授業やイベント以外にどのような方法で実施しましたか？

具体的に：

問 3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？（枠内の該当する部分に○をご記入ください）

	内 容	対象者				
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他
座学	バスや電車等の乗り方の座学					
	地球環境問題と交通に関する座学					
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室					
	交通すごろく※1					
	フードマイレージ※2					
その他	（具体的に： _____)					
	（具体的に： _____)					

※1 交通すごろく：すごろくゲームで、交通と環境の関係を学習

※2 フードマイレージ：買物ゲームで輸送時の環境改善を学習

■ 今後の「交通環境学習」についてお伺いします

問 4 今後、「交通環境学習」に取り組む予定はありますか？（1つに○）

1. 今年度（平成 30 年度）に取り組む
2. 予定はないが、機会があれば取り組む
3. 取り組まないと思う
4. 今後はわからない

問5 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

1. 教育委員会の理解が得られない
2. 具体的な取組内容がわからない
3. 学校の協力が得られない（アプローチの仕方がわからない）
4. 交通事業者の協力を得られない
5. 期待した効果が得られない
6. 教材の準備などが大変
7. 進め方について相談できる窓口がない
8. 具体的事例を知る機会が少ない
9. その他（具体的に： _____）

問6 仮に、今後、貴自治体において「交通環境学習」に取り組む場合に、予想される問題点や、支援して欲しい事柄などについて、具体的に教えてください。

具体的に：

■ 貴自治体やご回答者について

- 本アンケートのご回答者 ※不明点などについて、お問い合わせさせていただく場合があります。

自治体名				担当部署	
氏名				役職	
TEL		FAX		e-mail	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
アンケートは、**12月21日（金）**までに、
インターネット、メール、FAXのいずれかで返送願います。

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、環境にやさしい地域社会の実現を目指し、「児童や生徒を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」の普及に取り組んでいます。このたび、全国の小学校における「交通環境学習」の取組状況や課題等を把握するため、アンケート調査を実施することとなりました。

集計結果は、交通環境学習ポータルサイト (<http://www.mm-education.jp/>) での公表を予定するとともに、ご回答いただいた教育委員会の方には、本調査の集計結果や交通環境学習関連情報をご提供させていただきます。

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

「交通環境学習」とは？

「バス」や「鉄道」などを教材に用いた学習のこと。*詳しくは調査票4ページをご覧ください

交通環境学習の 授業内容例

- ・バスや鉄道の乗り方教室
- ・公共交通を用いた地球環境や福祉の学習
- ・地域学習の一環としてのバス・電車を使った校外学習
- ・公共交通を題材としたまちづくりの学習
- ・交通すごろく（すごろくゲームで交通と環境問題や渋滞との関係を学習）
- ・フードマイレージ（買物ゲームで輸送時の環境負荷を学習） など

■記入上のご注意

- ・この調査票は、全国の都道府県、市の教育委員会にお送りしています。
- ・貴教育委員会が所管する小学校における「交通環境学習」について、本調査票へ御記入をお願いいたします。

■回収の期日

アンケートは、**12月21日（金）**までに、回答願います。

■調査票の回収方法（A～Cのいずれかの方法で回答ください）

A. インターネット

下記交通環境学習ポータルサイトにアクセス後、回答画面にて入力できます

交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>

B. FAX

記入後の調査票を **FAX 06-4796-8509** まで返信

C. メール

エコモ財団ホームページから調査票をダウンロードいただき、
記入後の調査票を info@mm-education.jp まで返信

【問い合わせ先】 交通エコロジー・モビリティ財団（担当：岡本）／TEL 03-3221-7636

■調査会社（調査票の配布・回収）

地域未来研究所（担当：貞松、田子）／TEL 06-4796-8502

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

アンケートにご回答いただく前に、最終ページ（4 ページ）の「交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）とは」をご覧ください。

■「交通環境学習」の取組み状況

問1 貴教育委員会が所管する小学校では、「交通環境学習」に取り組んでいますか？
(近いもの1つに○)

1. 全小学校で、交通環境学習を取り入れた授業を行っている
2. 一部の小学校で、授業にとり入れている
3. 今は取り組んでいないが、今後、授業にとり入れることは可能 →問3へ
4. 授業にとり入れることは難しい →問3へ

問2 取組が行われている小学校の「交通環境学習」の代表的な事例をお答えください。
わかる範囲の記載で結構です。(4件以上ある場合は、お手数ですが本頁をコピーしてお答えください)

小学校名		学年	
教科・単元			
主な内容			

小学校名		学年	
教科・単元			
主な内容			

小学校名		学年	
教科・単元			
主な内容			

問3 小学校以外（中学校、高校）での「交通環境学習」の取組があれば、下記にお答えください。

具体的に：（学校名、学年、教科、学習の内容をわかる範囲でお書きください）

■ 貴教育委員の交通環境学習に対する考え方について

問4 貴市の教育方針と「交通環境学習」の親和性に関して、最も近いものはどれですか。（1つに○）

1. 交通環境学習は、市の教育方針と、とても合致していると思う
2. 交通環境学習は、市の教育方針と、概ね合致していると思う
3. 交通環境学習の意義はわかるが、市の教育方針とは合致していない →問6へ
4. 学校教育で、交通環境学習に取り組む意義がわからない →問7へ
5. その他（具体的に： _____ ） →問6へ

問5 交通環境学習と合致する「市の教育方針」とは、どのような内容でしょうか。
（簡単で結構ですので、お書きください）

具体的に：

問6 「交通環境学習」には、どのような効果があるとお考えですか（いくつでも）

1. 住んでいるまちの理解が深まる
2. 住んでいるまちへの愛着が生まれる
3. 公共の場でのルールやマナーを身につけることができる
4. 地球環境への理解が深まる
5. 移動手段について考え、選択できることができるようになる
6. バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる
7. 地域や社会、他の人のことを考えて、自分自身の行動を選ぶことができるようになる
8. その他（具体的に： _____ ）

問7 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

1. 授業時間の確保が難しい
2. 予算が足りない
3. 具体的な取組内容がわからない
4. 自治体や交通事業者の協力を得るのが難しい
5. 適切な教材を準備することが難しい
6. 進め方について相談できる窓口がない
7. 教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない
8. 具体的事例を知る機会が少ない
9. その他（具体的に： _____）

問8 交通エコロジー・モビリティ財団が調査した結果、公共交通を教材に用いた「交通環境学習」に取り組む小学校は、全国で少しずつ増えています。

また、教育委員会と自治体が連携して「交通環境学習」の教育的効果を考え、授業に活かしている地域もあります。

貴教育委員会としては、「交通環境学習」を普及・推進することに対して、どのように思われますか。

具体的に：

● 本アンケートのご回答者をご記入ください

※不明点などについて、お問い合わせさせていただく場合があります。

教育委員会名					
回答者の氏名			所属部署・役職		
TEL		FAX		e-mail	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

アンケートは、**12月21日(金)**までに、
インターネット、メール、FAXのいずれかで返送願います。

●交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）とは●

「交通環境学習」は、私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通流動を、「人や社会、環境にやさしい」という観点から見直し、改善していくために自発的な行動をとれるような人間を育てる（力を育む）ことを目指した教育活動です。

全国の小学校で、生活科、社会科、理科、家庭科、総合的な学習の時間などにおいて、バスや鉄道を教材に用いた「交通環境学習」が行われています。

エコモ財団では、小学校、行政、交通事業者と連携を図りながら、「交通環境学習」の手引きづくりや授業実践の支援、教材等の情報提供などを行っています。

実践事例

●地域の電車・バスなど（公共交通）を考える学習

バス車両の見学や体験乗車・座学を通じて、地域の生活を支えるバスの役割を学ぶとともに、高齢者や高校生などの移動を支える公共交通を守るための自分たちの行動について考え、バスに乗る時に他の人への気配りの意識を持ち、公共の場でのルールやマナーを身につける。



<長野市立綿内小学校>

●まちづくりと交通を考える学習

市内の交通の様子を調べることで、市の中心部には公共交通が多く、周辺部にはバスしか走っていないこと、公共交通は土地利用や人のくらしとつながっていることに気づく。



<北海道教育大学附属札幌小学校>

●クルマ社会の問題を考える学習

過度なクルマの利用が地球環境問題や道路渋滞を引き起こしていることに気づき、自分たちの普段の行動や生活が社会問題につながっていることを考える。



<草加市立柳小学校>

その他にも、まち・環境・公共（政治や公民的資質、シティズンシップなど）と交通に関わる様々な学習なども取り組まれています。

モビリティ・マネジメント教育ポータルサイト

授業で使える「教材（学習資料を含む）」や「実践事例」を提供しています。ぜひ、一度訪問して下さい。

<http://www.mm-education.jp/index.html>

MM教育

検索

4



2. WEB 用に作成したアンケート画面

2-1 : アンケート回答画面

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

「学校と連携した交通と環境問題に関する授業や児童や生徒等を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」のより一層の普及を目的として、全国の自治体での取組状況や課題等を把握するためのアンケート調査を実施しています。

なお、集計結果は、[交通環境学習ポータルサイト](#)での公表を予定するとともに、ご回答いただいた方には、本調査の集計結果や交通環境学習関連情報をご提供させていただきます。

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

• 回答上のご注意

※回答いただくアンケートは、都道府県・市・教育委員会によって分かれています。また、都道府県・市は平成29年度
の取組の確認状況によって分かれています。お送りした調査票の色をご確認いただき、該当の色のアンケートにご回答
いただきますようお願いいたします。

• 回答期日

2018年12月21日(金)までにご回答願います。

下記より該当のアンケートをクリックして、お進みください。

A.都道府県

A-1 昨年度調査で、交通環境学習の取組が確認された都道府県
(黄色の調査票)

A-2 上記以外の都道府県
(青色の調査票)

B.市

B-1 昨年度調査で、交通環境学習の取組が確認された市
(ピンク色の調査票)

B-2 上記以外の市
(みどり色の調査票)

C.教育委員会

C 教育委員会
(白色の調査票)

© Regional Futures Research Center 2018.

図 アンケート回答画面 トップページ

※ここでは市用に作成された
B-1 調査票用の回答ページを示す。

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

貴自治体での平成29年度の「交通環境学習」の実施状況についてお伺いします

問1. 貴自治体では昨年度（平成29年度）に「交通環境学習」を実施しましたか？（1つに○）

※学校からの依頼で行ったものや、交通事業者や運輸局等の取組に協力して実施したものも含まれます。

- 実施した [副問1.1.へ](#)
 過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった [副問1.2.へ](#)

副問1.1. 問1で「実施した」とお答えの方にお伺いします。

「交通環境学習」を継続的に実施できる理由は何ですか？（いくつでも）

- 効果が期待できる
 学校や交通事業者等が主体となって実施している
 学校からの要請がある
 自治体の方針や計画に位置づけられている
 その他

[副問1.1.1.のあとは、問2.へ](#)

副問1.2. 問1で「昨年度は実施しなかった」とお答えの方にお伺いします。

「交通環境学習」を実施しなかった理由は何ですか？（いくつでも）

- 取組方法がわからない
 担当部課の人手不足
 予算が確保できない
 効果が分からない
 学校の協力が得られない
 教材の作成や準備が大変
 その他

[副問1.2.1.のあとは、問4.へ](#)

問2. 昨年度、貴自治体で取り組まれた「交通環境学習」の実施方法についてお伺いします。

(1)それは、学校の授業の一環として実施しましたか？

- 実施した [副問2.1.へ](#)
 実施していない [\(2\)へ](#)

副問2.1. (1)で「実施した」とお答えの方にお伺いします。

授業の実施主体をお答えください。（いくつでも）

- 貴自治体が学校に依頼して実施
 自治体指定の共通カリキュラムを学校で実施
 各学校が独自カリキュラムで取組
 出前講座として学校からの依頼に対応
 国や都道府県、交通事業者等が主体となり実施
 その他

(2)それは、イベント（フォーラム、バスまつり等）として実施しましたか？

- 実施した [副問2.2.へ](#)
 実施していない [\(3\)へ](#)

副問2.2. (2)で「実施した」とお答えの方にお伺いします。

イベントの実施主体をお答えください。（いくつでも）

- 貴自治体が主体となり実施
 国や都道府県が主体となり実施
 交通事業者が主体となり実施
 その他

図 アンケート回答画面（1/2）

(3)それは、授業やイベント以外にどのような方法で実施しましたか？

具体的に

問3. 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？（枠内の該当する部分をチェックしてください）

	内容	対象者				
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他
座学	バスや電車等の乗り方の座学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	地球環境問題と交通に関する座学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	交通すごろく※1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	フードマイレージ※2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他※3	具体的に	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	具体的に	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※1：交通すごろく：すごろくゲームで、交通と環境の関係を学習

※2：フードマイレージ：買物ゲームで輸送時の環境改善を学習

※3：当てはまらないものがあれば、内容をご入力ください

今後の「交通環境学習」についてお伺いします

問4. 今後、「交通環境学習」に取り組む予定はありますか？（1つに○）

- 今年度（平成30年度）に取り組む
- 予定はないが、機会があれば取り組む
- 取組まないとと思う
- 今後はわからない

問5. 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

- 教育委員会の理解が得られない
- 具体的な取組内容がわからない
- 学校の協力が得られない（アプローチの仕方がわからない）
- 交通事業者の協力を得られない
- 期待した効果が得られない
- 教材の準備などが大変
- 進め方について相談できる窓口がない
- 具体的事例を知る機会が少ない
- その他 具体的に

問6. 今後、貴自治体において「交通環境学習」に取り組む場合に、
予想される問題点や、支援して欲しい事柄などについて、具体的に教えてください。

具体的に

最後に、貴自治体やご回答者について教えてください

● 本アンケートのご回答者※不明点などについて、お問い合わせさせていただく場合があります。

自治体名： 自治体名 担当部署： 担当部署
氏名： 氏名 役職： 役職
TEL： TEL FAX： FAX e-mail： e-mail

質問は以上です。送信ボタンを押してください。

図 アンケート回答画面（2/2）

2-2 : アンケート調査票ダウンロード画面

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

「学校と連携した交通と環境問題に関する授業や児童や生徒等を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」のより一層の普及を目的として、全国の自治体での取組状況や課題等を把握するためのアンケート調査を実施しています。

なお、集計結果は、[交通環境学習ポータルサイト](#)での公表を予定するとともに、ご回答いただいた方には、本調査の集計結果や交通環境学習関連情報をご提供させていただきます。

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

- **回答上のご注意**
※回答いただくアンケートは、都道府県・市・教育委員会によって分かれています。また、都道府県・市は平成29年度の取組の確認状況によって分かれています。お送りした調査票の色をご確認いただき、該当の色のアンケートにご回答いただきますようお願いいたします。
- **回答期日**
2018年12月21日(金)までにご回答願います。

下記より該当の調査票をダウンロードいただき、記入後の調査票を info@mm-education.jp まで、返信ください。

A.都道府県

A-1 昨年度調査で、交通環境学習の取組が確認された都道府県
(黄色の調査票)

A-2 上記以外の都道府県
(青色の調査票)

B.市

B-1 昨年度調査で、交通環境学習の取組が確認された市
(ピンク色の調査票)

B-2 上記以外の市
(みどり色の調査票)

C.教育委員会

C 教育委員会
(白色の調査票)

© Regional Futures Research Center 2018.

図 アンケート調査票ダウンロードページ